丸岡城周辺
賑わいのまちづくりビジョン

2018年3月

〈 一般社団法人丸岡城天守を国宝にする市民の会 〉

丸岡城周辺
賑わいのまちづくり
ビジョン

目次

第 1 章 はじめに 1

1「丸岡城周辺賑わいのまちづくりビジョン」の役割 2

2「丸岡城周辺賑わいのまちづくりビジョン」の構成 5

第 2 章 現状とまちづくりの視点 7

1 魅力 現存天守を中心とし、多くの地域資源がある 8

2 課題 8

3 丸岡をとりまく今後の社会の変化 9

4 まちづくりの視点 9

第 3 章 実現したい未来 11

1「50 年後の丸岡城周辺」イメージ 13

第 4 章 まちづくりの理念と基本方針 15

1 まちづくりの理念 16

2 まちづくりの基本方針 18

基本方針 1 やっぱりお天守がまちのシンボル 18

1-1 内堀五角形内を人が集まり佇む憩いの場とする 18

1-2 お天守の美しさを際立たせる引き算の景観づくりで価値を高めていく 25

1-3 丸岡城本丸までの交通アクセスを工夫する 26

基本方針 2 観光まちづくりに力をいれる 28

2-1 丸岡城のポテンシャルを活かした観光を創出していく 29

2-2 周遊したくなる仕掛けをつくり丸岡城周辺に人の流れをつくる 29

2-3 食の楽しみを増やす 29

2-4 マーケティング・PR に取り組む 30

基本方針 3 心地よくワクワク感のあるまちを探求する 31

3-1 人のアクティビテイを豊かにする 31

3-2 空き家を活かして丸岡城周辺の職・住・遊を混ぜていく 31

第 5 章 施 策 33

施策 1 食の開発に取り組む 34

施策 2 公民学が中立的にまちづくりに取り組める役割を担う機能をつくる 38

施策 3 お城ファンの寄り合いの場「城小屋」をつくる 40

施策 4「まちに泊まる素泊まりホテル」と「滞在拠点」をつくる 42

施策５ アクティビティづくりと人づくりをする 44
施策６ 散策・周遊性向上の仕掛けをつくる 49
施策７ 空き家や空き地の活用で観光まちづくりビジネスを創出する 52
施策８ マーケティング・PR に取り組む 55
施策９ 内堀五角形周辺の環境整備を促進する 59
施策のロードマップイメージ 61
第６章 おわりに 63
今後の進め方 64
資 料 65
1 丸岡城について 66
2 国宝丸岡城 69
3 丸岡出身の偉人紹介 70

第１章

はじめに

―丸岡城周辺賑わいのまちづくり
ビジョンについて―

お天守からの眺め

丸岡城周辺賑わいのまちづくりビジョンの役割や
構成についてまとめていきます。

1　「丸岡城周辺賑わいのまちづくりビジョン」の役割

拠り所となるもの

丸岡城周辺賑わいのまちづくりビジョン（以下、「本ビジョン」といいます）は、後世に残していくべき宝（文化財）としての丸岡城の維持・保存と、それを活用した観光まちづくり[1]を共存させ、お天守の魅力や価値を高めると共に、私たち住民の暮らしをより良く豊かにしていくための拠り所になるものとして、一般社団法人丸岡城天守を国宝にする市民の会[2]（以下、「市民の会」といいます）が策定したものです。

視座と時間軸

本ビジョンの視座と時間軸は、次のように設定しています。

- 実現したい未来（第 3 章）　**：50 年後**
  ☞長期的、俯瞰的に想像した、住民や関係者で共有したい
  丸岡城周辺の理想的な未来の姿、あり方

- まちづくりの理念と基本方針（第 4 章）　**：10 年間**
  ☞描いた未来が形づくられるように、現状を把握した上で、
  住民や関係者が一体的に観光まちづくりを進めていくための目指す方向

- 施策（第 5 章）　**：5 年間**
  ☞まちづくりの基本方針に基づいて、重点的に着手していきたい
  第一歩の取り組み

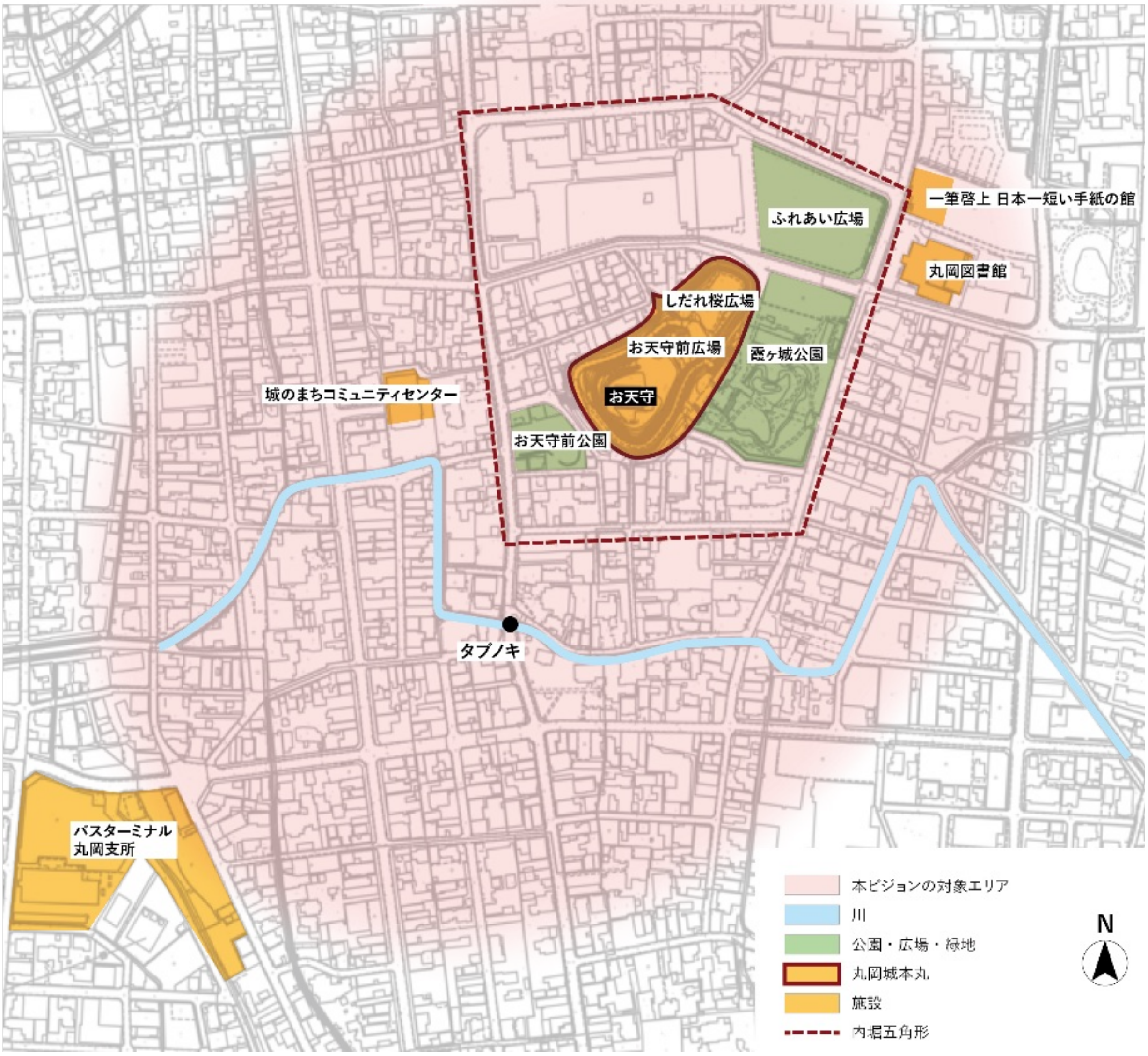
[1] 本ビジョンでは、「観光まちづくり」を次の意味で使用します。
- 地域が主体となって行う継続的な「まちづくり活動」と「外から人を呼び込む活動」が一体的に取り組まれる「住んでよし、訪れてよし」のまちづくり
- 地域資源を活かして住民や観光客に上質な体験を提供し、人の行き交いを継続的に生み出すことで、地域の経済活動と賑わいが向上するまちづくり
- 地域の課題が「観光」によって個性に変わり、住民の暮らしの質が向上するまちづくり

[2] 「一般社団法人丸岡城天守を国宝にする市民の会」は、丸岡城天守の国宝化に向けた市民の気運醸成、丸岡城周辺の整備及び賑わい創出に取り組み、丸岡城天守の価値を高め、誇りを持って後世に伝えていくことを目的として 2017 年春に発足しました。（その前身となる「丸岡城天守を国宝にする市民の会」は 2016 年春に発足しました。）

対象エリア

本ビジョンは、「丸岡城周辺」を対象エリアとしています。これは、丸岡城を次世代につないでいくため、まずはじめに、お天守を核とした観光まちづくりを進めていきたい、という思いからなるものです。

このような思いで取り組みを行っていく中で、対象エリアの拡大や、他地区・他地域との連携を図り、丸岡全体、坂井市全体の魅力が高まるよう努めていきます。



本ビジョンの対象エリア

2 「丸岡城周辺賑わいのまちづくりビジョン」の構成

第3章 **実現したい未来「50年後の丸岡城周辺イメージ」**

50年後

第2章

現状とまちづくりの視点

まちづくりの視点

魅力を伸ばす / 課題を改善し個性に変えていく / マーケティング的思想
観光産業を基盤産業の一つにする / 社会の変化を意識し未来思考を取り入れる

第1章

はじめに

「丸岡城周辺賑わいの まちづくりビジョン」の役割

- 丸岡城の維持・保存と、それを活用した観光まちづくりを共存させ、お天守の魅力や価値を高めると共に、私たち住民の暮らしをより良く豊かにしていくための拠り所になるもの
- 視座と時間軸の設定
- 対象エリアの設定

「丸岡城周辺賑わいの まちづくりビジョン」の構成

資料

丸岡城について/ 国宝丸岡城/丸岡出身の偉人紹介

魅力

- 現存天守、一筆啓上賞、中野重治、織ネーム、丸岡産玄そば粉など、全国レベルの地域資源を有している
- 官民連携で様々なイベントが開催されている
- 「しろのまちマルシェ」など住民主体の活動が活発に行われている

課題

- 城郭の景観が失われてきた歴史、観光業が発達してこなかった歴史がある
- 空き店舗が増え商店街の賑わいが失速傾向にある
- 交通の利便性にややかける
- マーケティングに取り組んでいない

丸岡をとりまく今後の社会の変化

- 人口減、テクノロジーの発達による暮らしの転換期
- 北陸新幹線敦賀開業など、交流人口増の機会がある

第4章 **10年間**

まちづくりの理念と基本方針

理念

“丸岡らしさをつくり
丸岡城もまちも 次世代につなぐ”

基本方針❶
やっぱりお天守が まちのシンボル

1.内堀五角形内を人が集まり佇む憩いの場とする

2.丸岡城の美しさを際立たせる引き算の景観づくりで価値を高めていく

3.丸岡城本丸までの交通アクセスを工夫する

基本方針❷
観光まちづくりに力をいれる

1.丸岡城のポテンシャルを活かした観光を創出していく

2.周遊したくなる仕掛けをつくり丸岡城周辺に人の流れをつくる

3.食の楽しみを増やす

4.マーケティング・PRに取り組む

基本方針❸
心地よくワクワク感のある まちを探求する

1.人のアクティビティを豊かにする

2.空き家を活かして丸岡城周辺の職・住・遊を混ぜていく

第5章 **5年間**

施 策

施策❶ **食の開発に取り組む**

施策❷ **公民学が中立的にまちづくりに取り組める役割を担う機能をつくる**

施策❸ **お城ファンの寄り合いの場「城小屋」をつくる**

施策❹ **「まちに泊まる素泊まりホテル」と「滞在拠点」をつくる**

施策❺ **アクティビティづくりと人づくりをする**

施策❻ **散策・周遊性向上の仕掛けをつくる**

施策❼ **空き家や空き地の活用で観光まちづくりビジネスを創出する**

施策❽ **マーケティング・PRに取り組む**

施策❾ **内堀五角形周辺の環境整備を促進する**

施策のロードマップイメージ

第6章 **おわりに**

第２章

現状とまちづくりの視点

春のお天守前広場

丸岡城と周辺の魅力、課題、今後の社会の変化から
まちづくりの視点をまとめていきます。

1 魅力 現存天守を中心とし、多くの地域資源がある

丸岡の最大の魅力は、日本最古と言われる木造天守を有していることです。登城者数は年間 12 万人を超え、丸岡を象徴する強力な地域資源となっています。

このほか、一筆啓上賞、中野重治、織ネームをはじめとする越前織（繊維関連）の地場産業、丸岡産玄そば粉などがあり、これらはすべて全国的にみても特徴のある、差別化できる魅力、地域資源です。

内堀内には約 400 本のソメイヨシノが植えられており、「霞ヶ城公園」として「日本さくら名所 100 選」に選ばれています。こうした四季折々のお天守を人々と分かちあい盛り上げていこうと、丸岡城桜まつり、丸岡古城まつり、丸岡城紅葉まつりといった大きなイベントが官民連携で開催されています。

また、「しろのまちマルシェ」など、住民が楽しみながら丸岡の良さを伝えていく活動や、地域の商店約 20 店舗が食べ歩きクーポン「丸岡城下町 食べ見て歩き得札」に協力するなど、活発な取り組みが生まれる土壌があり、地域資源、人、共に高いポテンシャルのあるまちです。

2 課題

このように個々では豊かな地域資源を有している一方で、多くの課題も見受けられます。

明治 6 年（1873 年）の廃城令、昭和 23 年（1948 年）の福井地震などで城郭や街並が失われた歴史、地場産業が栄えている分、観光業が発達してこなかった経緯もあり、観光客の丸岡での滞在時間は短く、お天守を見るためだけに訪れる通過点になってしまっています。現在丸岡城周辺に宿泊施設はなく、観光客を意識した飲食店や商店も少ないため、街中を周遊する機会が失われています。また、商店そのものが減少しており、空き店舗が増え、かつての商店街の賑わいは失速傾向にあります。

交通に関しては、丸岡 IC が近く車の便は良いものの、JR やえちぜん鉄道の駅からは遠く、車中心の地域となっており、旅行者にとって公共交通機関の利便性のやや不足があげられます。

このように丸岡のこれまでのあゆみに結びつけられる課題とは異なる最大の課題と

して、マーケティング活動（30p 脚注参照）を実践していないことがあげられます。これでは私たちの想像・体験・理解の範囲内でしか観光をとらえられず、課題やまちのポテンシャルを的確に抽出したり、見極めることができません。結果、独自性も打ち出せず、単発的で一方通行の取り組みになってしまうことが懸念されます。

3　丸岡をとりまく今後の社会の変化

2015 年に策定した坂井市人口ビジョン「坂井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、目指すべき将来の人口規模の減少（政策努力を加味した推計値）を、2010 年の総人口 91,900 人から 2020 年の総人口約 90,000 人、そして 2060 年には総人口 81,700 人程度（2010 年から 1 割程度の減少）にとどめる目標が掲げられています。少子高齢化に歯止めをかけ、人口減少を前提とした社会づくりを進めていくために、市全体の経済活性化、地域に対する住民の愛着と誇りの醸成に寄与する産業として、観光産業の振興を図ると定めています。

坂井市だけでなく日本全体がこれから迎える少子高齢化社会や、テクノロジーの発展により、今後私たちの暮らしはますます大きく変わっていくことが予想されます。

また、5 年後の 2023 年春には北陸新幹線の敦賀開業が控えており、北陸新幹線金沢開業時のように、一時的に丸岡の交流人口は増えることが想定されます。

4　まちづくりの視点

魅力、課題、今後の社会の変化から、観光まちづくりを推進していくにあたり、次の視点が必要であると考えます。

- **魅力を伸ばす**
- **課題を改善し、個性に変えていく**
- **マーケティング的思想を取り入れる**
- **観光産業が基盤産業の一つとなるような、官民が一体となったまちづくり**
- **社会の変化を意識し、未来思考を取り入れる**

第 3 章

実現したい未来

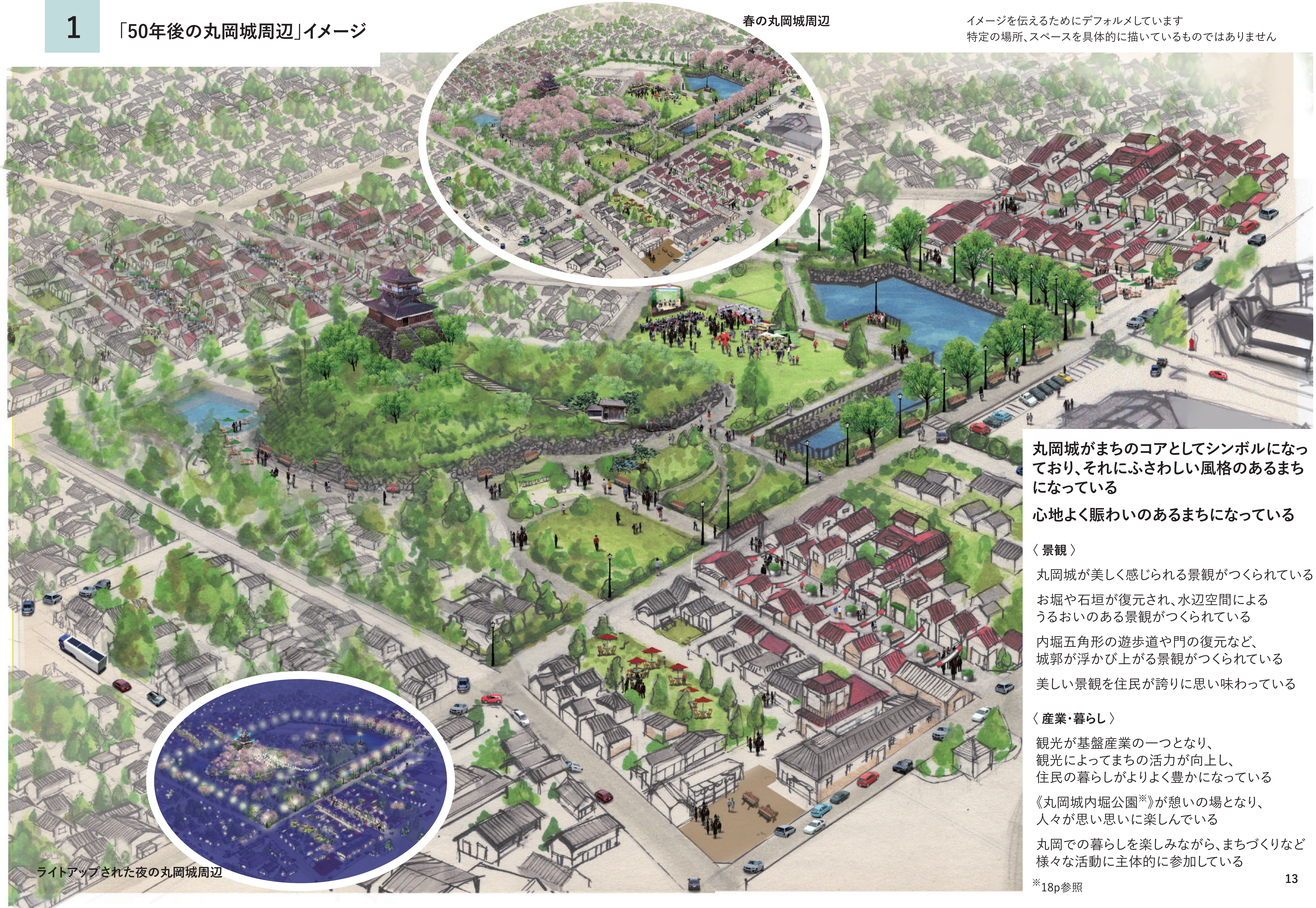
―50 年後の丸岡城周辺―

お正月のお天守

実現したい未来として
50 年後の丸岡城周辺の将来像を想像します。

「50年後の丸岡城周辺」イメージ

イメージを伝えるためにデフォルメしています
特定の場所、スペースを具体的に描いているものではありません



春の丸岡城周辺

ライトアップされた夜の丸岡城周辺

丸岡城がまちのコアとしてシンボルになっており、それにふさわしい風格のあるまちになっている

心地よく賑わいのあるまちになっている

〈 景観 〉

丸岡城が美しく感じられる景観がつくられている

お堀や石垣が復元され、水辺空間による
うるおいのある景観がつくられている

内堀五角形の遊歩道や門の復元など、
城郭が浮かび上がる景観がつくられている

美しい景観を住民が誇りに思い味わっている

〈 産業・暮らし 〉

観光が基盤産業の一つとなり、
観光によってまちの活力が向上し、
住民の暮らしがよりよく豊かになっている

《丸岡城内堀公園※》が憩いの場となり、
人々が思い思いに楽しんでいる

丸岡での暮らしを楽しみながら、まちづくりなど
様々な活動に主体的に参加している

※18p参照

第 4 章

まちづくりの理念と基本方針

前章で描いた将来像を実現していくために
今後 10 年間を一つの節目とし
目指していきたいまちづくりの方向性をまとめていきます。

理念	丸岡らしさをつくり　丸岡城もまちも　次世代につなぐ	16

基本方針 1	やっぱりお天守がまちのシンボル	18

1-1　内堀五角形内を人が集まり佇む憩いの場とする　18
1-2　お天守の美しさを際立たせる引き算の景観づくりで価値を高めていく　25
1-3　丸岡城本丸までの交通アクセスを工夫する　26

基本方針 2	観光まちづくりに力をいれる	28

2-1　丸岡城のポテンシャルを活かした観光を創出していく　29
2-2　周遊したくなる仕掛けをつくり丸岡城周辺に人の流れをつくる　29
2-3　食の楽しみを増やす　29
2-4　マーケティング・PR に取り組む　30

基本方針 3	心地よくワクワク感のあるまちを探求する	31

3-1　人のアクティビティを豊かにする　31
3-2　空き家を活かして丸岡城周辺の職・住・遊を混ぜていく　31

1 まちづくりの理念

丸岡らしさをつくり、丸岡城もまちも次世代につなぐ

安土桃山時代、天正 4 年（1576 年）に築城されたといわれる丸岡城。
お天守に象徴される丸岡城周辺は、長い歴史と文化を積み重ねて今日に至ります。
その年月、約 450 年。これまでに一体どのくらいの人々がこの地で暮らしてきたのでしょうか。

私たちは、今一度丸岡城と周辺にしっかりと向き合い、丸岡城の歴史文化や空間の履歴を受けとめ、今を刻みより良くして未来につないでいくために、"丸岡らしさ"とは何かを考え続け、それを紡ぎ出す種をたくさん蒔いていきましょう。

“丸岡らしさ”をつくろう

“丸岡らしさ”をつくるということは、ブランディング[3]に取り組むことです。“丸岡らしさ”とは何かを考え、議論しながら物事を進めていくことで、物語がつくられ、ブランドが形づくられていくと考えます。

「丸岡らしいよね」という感覚を少しずつ共有し、形にして、丸岡城もまちも次世代につないでいきましょう。

[3] 「ブランディング」とは、ブランドを構築し、伝える活動全般をいうマーケティング活動（30p 脚注参照）の1つです。ブランドとは、”らしさ”=独自性（他と差別化するためのモノ、ストーリー、体験、それらの組み合わせ）です。

2　まちづくりの基本方針

基本方針1　やっぱりお天守がまちのシンボル

昔も今も、お天守がまちの中心であることには変わりありません。私たちの暮らしの活力や憩いといった心の拠り所として、皆に愛され、大切にされ続けるお天守を未来につないでいきたいと考えます。

1-1　内堀五角形内を人が集まり佇む憩いの場とする

内堀五角形内をまちのコアエリア、一つの「公園」（本ビジョンでは区別するため、仮に《丸岡城内堀公園》と表現します。）ととらえ、住民や観光客の憩いの場として、多様な人々が集まり、交流し、佇み、賑わいをもたらす場と位置づけます。きれいに整備されているが誰もいない広場や公園ではなく、そこで過ごす時間が豊かなものとなる、人々に利用される場です。

そのために、《丸岡城内堀公園》内には、多種多様な機能が必要であると考え、都市部ではなくとも、公共空間として、ヤン・ゲール[4]氏の著書『人間の街―公共空間のデザイン―』にある“目の高さの街―12 の質的基準”が備わる場を目指します。

> まず決定的に重要なのは、個別の検討をはじめる前に、危険、傷害、犯罪、不快感などに対して適切な防止策を講じることである。気候の好ましくない影響にも配慮が必要である。こうした大きな問題の防止策がひとつでも欠けていたら、他の特質を保護する対策が無意味になりかねない。
>
> 次の段階で必要なのは、快適な空間を提供し、歩く、立ち止まる、座る、見る、話す、聞く、自己を表現するなど、公共空間利用の基礎になる最も重要な活動に人びとを誘引することである。〔中略〕

[4] ヤン・ゲール（Jan Gehl）1936 年生まれ。都市デザイナー。

1960 年デンマーク王立芸術大学建築学部卒業。米国、カナダ、メキシコ、オーストラリア、ヨーロッパ各国で研究・教育・実践に携わり、王立芸術大学建築学部教授を経て、ゲール・アーキテクツ主宰。1993 年すぐれた都市計画業績に対して贈られる国際建築家連合のパトリック・アバークロンビー賞を受賞。

その場所の特徴を活かすには、適切な人間的スケールを守り、その地域の気候の長所を楽しむ機会を提供し、さらに美的体験と快適な知覚効果を用意する必要がある。すぐれた建築とデザインは 12 番目の基準と関わりが深い。この基準は他のすべての基準を包括する概念である。したがって、建築とデザインを他の基準と切り離して扱うことはできない。この点を忘れてはならない。

世界で最も美しく、よく機能している都市空間は、ここで言及したすべての質的因子にきめ細かく総合的に対応している。どれも軽視してはならない。これは興味深く示唆に富む事実である。

出典：Gehl, Gemzøe, Kirknæs, Søndergaard, New City Life, The Danish Architectural Press, 2006をもとにゲール事務所が改訂

（ヤン・ゲール著『人間の街—公共空間のデザイン』鹿島出版会 2014 年 246-247p より引用）

《丸岡城内堀公園》の方向性

お堀や門の復元についても《丸岡城内堀公園》の一部として位置づけます。復元を通して守っていきたい遺産と、刻んでいきたい今をどう融合させていくかを考えいく必要があります。《丸岡城内堀公園》として整備していくための方向性を、ヤン・ゲール氏の 12 の質的基準（16p 参照）に加え、次にまとめます。

1. 後世に残すべき歴史文化的価値の高いエリアとして、丸岡城の魅力、丸岡の歴史の履歴が感じとられること
2. 内堀五角形[5]を丸岡城の特徴の一つとして大切にし、散策や佇む場に特化させた遊歩道とすること
3. 桜をランドスケープ[6]・デザインの重要な要素とすること
4. お堀を一部復元、門を一部復元する（復元することを見越す）こと
5. 水辺空間、庭園、散策道、植樹空間、芝生空間など多様な変化が楽しめるようにすること
6. 《丸岡城内堀公園》の周辺機能が育ち（価値を上げ)、ショップなど商業施設に利用されることで、周辺を散策、はしごできるようになること
7. 史跡の保全を図りながら、人々が佇み憩える公園にするために、内堀五角形内の公共空間には、大きな建造物を極力新規に建てない、もしくは移設を前提にデザインされた建造物にするなど、建造物に関するルールを決めていくこと
8. 空き家などは主に民間が主体となり資源として活用し、最終的には除却していくこと
9. 空き地などの空間エリアを少しずつ確保し、ポケットパークなどで活用していくこと

この《丸岡城内堀公園》は、現況から「ふれあい広場～駐車場（一筆啓上茶屋）～霞

[5] 「五角形」
築城の名手として有名な藤堂高虎が手がけた宇和島城（天守建造 慶長 6 年/1601 年）の外郭は五角形をしており「空角の経始（あきかくのなわ)」と呼ばれています。敵に四角形と錯覚させることで、一角が死角となるため、城を守る際非常に有効に機能したと考えられています。宇和島城よりも早く築城された丸岡城の内堀も同じく五角形をしており、なぜこのような形になったのかは定かではありませんが、いずれにせよとても珍しく、宇和島城と丸岡城だけではないかという説もあります。大切にしていきたい丸岡城の特徴の一つです。

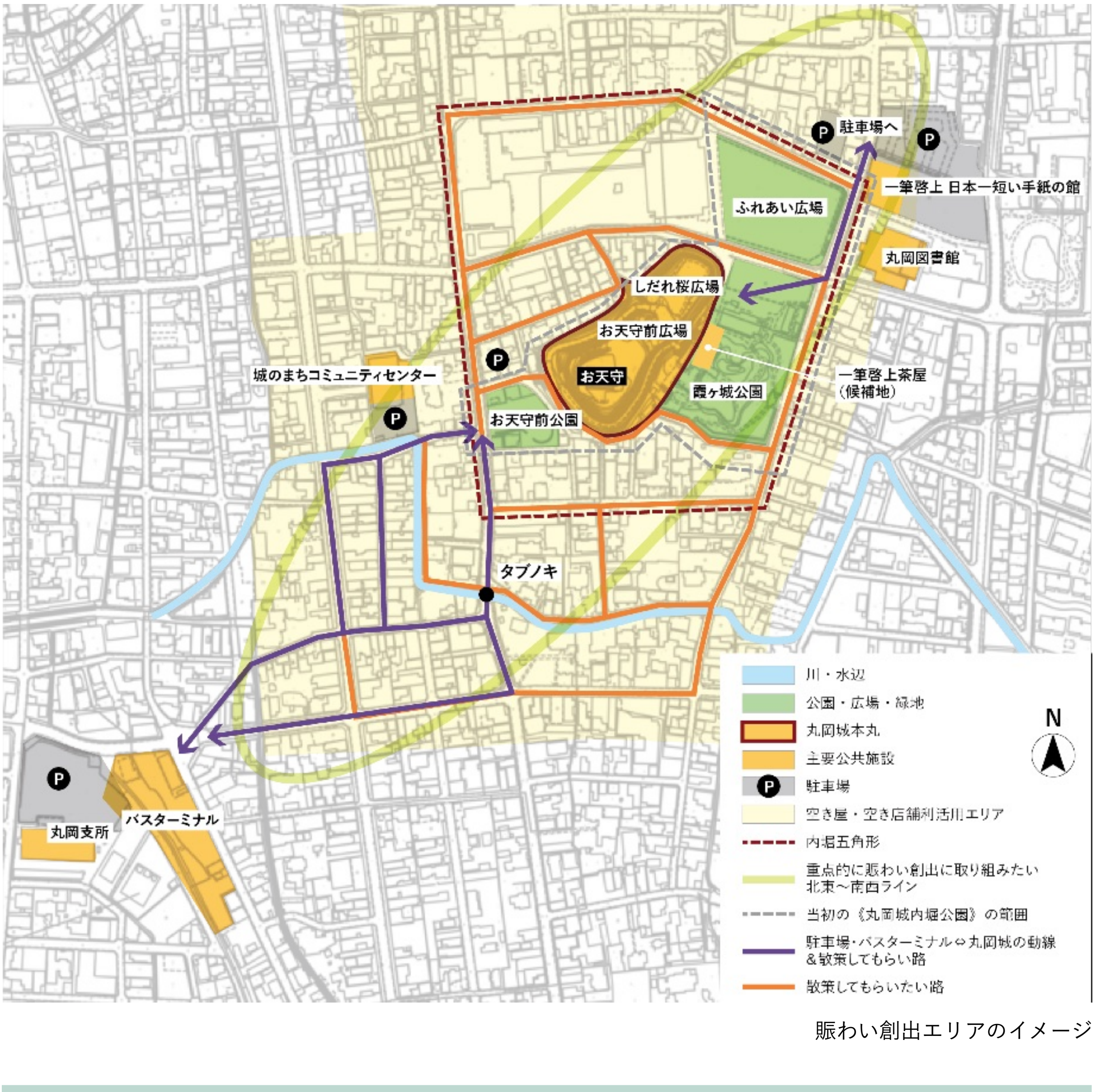
[6] 「ランドスケープ（Landscape)」は、景観を構成する諸要素。ある土地における、資源、環境、歴史などの要素が構築する政治的、経済的、社会的シンボルや空間。または、そのシンボル群や空間が作る都市そのもの。（「ウィキペディア」http://ja.wikipedia.org/より引用）

ヶ城公園（丸岡歴史民俗資料館）～丸岡城本丸～お天守前公園」を範囲とします。

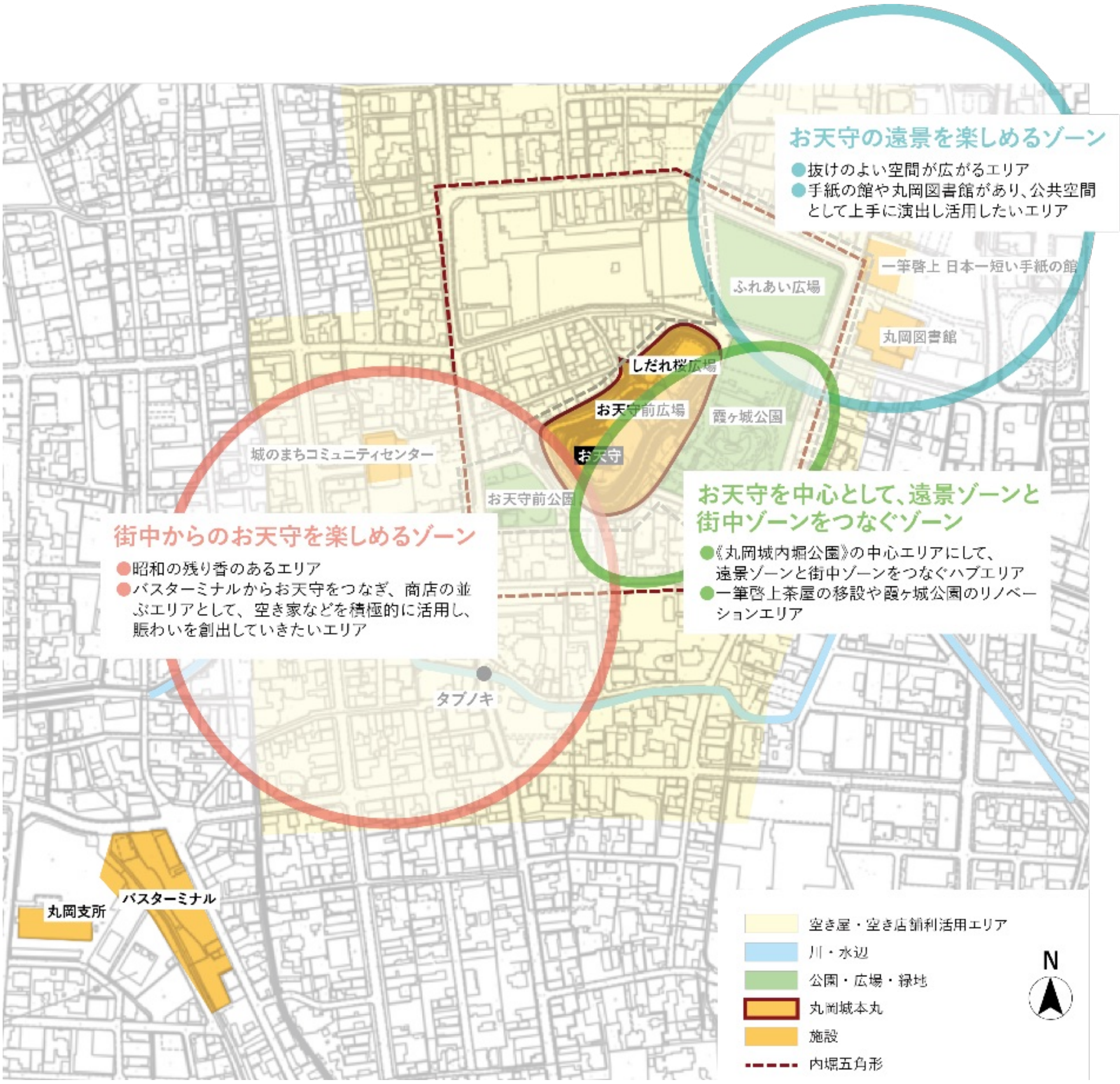
特に内堀五角形内に住んでおられる住民の方々と十分に話合いながら、遠い未来に、《丸岡城内堀公園》の範囲を少しずつ広げていきたいと考えます。

現在の景観特徴として、丸岡城の北東エリアは、周辺で一番抜けのよい空間が広がっており、遠景としてのお天守を楽しむことができます。一筆啓上 日本一短い手紙の館、丸岡図書館などの文化施設や駐車場が整備されているため、多くの観光客のお天守への入口となっています。一方、南西エリアは、どこか懐かしい昭和時代の雰囲気の残る住宅や商店エリアが広がっており、街中にあるお天守を近景として楽しむことができます。また、2020 年完成予定のバスターミナルにより 2 次交通を利用して訪れ、回遊する観光客の増加が期待されます。

まずは、丸岡城の北東～南西のラインの中心に、賑わいの創出化に取り組みます。



賑わい創出エリアのイメージ



各エリアの特徴イメージ

次に、《丸岡城内堀公園》構想に向け、公共空間における環境整備案を提案します。

ふれあい広場でお堀の一部復元を目指す

ふれあい広場は芝生を維持し、お堀の一部復元候補地として調査に着手します。

一筆啓上茶屋前駐車場を除却する

一筆啓上茶屋前駐車場を除却、観光客用駐車場は内堀五角形の外に整備します。歩

行が困難な方々への対応はしっかりと考えます。

一筆啓上茶屋を移設する

一筆啓上茶屋は建物の老朽化により建て替えの時期がきています。丸岡城周辺の観光拠点でもあることから、移転先、建物デザインは十分考慮する必要があります。

移転先は霞ヶ城公園内[7]とします。現一筆啓上茶屋前の駐車場は除却を提案しているため、駐車場からは遠くなりますが、登城者のほとんどが通る場所であること、霞ヶ城公園内という好立地により、観光拠点としての機能と集客が共に確保できると考えます。将来的には内堀五角形の外への移設が望ましいため、再移設を前提とすること、美しくデザインされた仮設建築を検討することを提案します。

また、拠点として、現一筆啓上茶屋の飲食スペース（そば処やカフェ）、物産スペース（丸岡城をはじめとするお城グッズ、地元産土産・商品・農産物）、体験スペース（そば打ち）に加え、丸岡城に関連する資料や映像などの展示スペースの機能を持たせることを提案します。

丸岡歴史民俗資料館を除却し、資料館の機能を分散する

丸岡歴史民俗資料館については、建物の老朽化といったハードの問題、展示数や内容の魅力が少ないことなどソフトの問題両方から、ボランティアガイドの方々が、観光客に対し積極的にご案内しづらい状況がうまれています。例えば 2015 年に国宝となった松江城にある松江歴史館は、登城者数の約 4 割強の入館者数があり、城を中心とした歴史資料などの資料館は、歴史や文化を伝えていくための観光コンテンツとしてとても必要なものだと言えます。

現丸岡歴史民俗資料館の建物はお天守の景観を損なうため除却を提案します。そして、資料館の機能を様々な場所[8]と手法で展開し、丸岡城に関連する資料を公開する場を増やしていきます。このように資料館機能を分散化させることで、運営がコンパクトになり、柔軟性の高い、より特色のある展示企画が実現しやすくなると考えます。あわせて、丸岡城周辺の見どころが増えるため、散策を促す契機を提供できると考えます。

[7] 「霞ヶ城公園内」は、例えば、丸岡歴史民俗資料館除却後の跡地なども考えられます。
[8] 「様々な場所」は、例えば、一筆啓上茶屋、一筆啓上 日本一短い手紙の館、丸岡図書館、バスターミナルといった公共空間や、民間施設などを想定しています。

霞ヶ城公園の範囲を拡大し、リノベーションする

霞ヶ城公園は、東・南側にある石塀と一筆啓上茶屋に囲まれていることにより、一筆啓上茶屋の庭園のように感じられるため、閉塞感があります。

霞ヶ城公園の範囲を一筆啓上茶屋駐車場まで広げ、リノベーションすることを提案します。リノベーション計画時に検討したい内容について、《丸岡城内堀公園》の方向性（20p 参照）に加え、次を提案します。

- ふれあい広場との一体感をつくること
- お天守前公園とのつながりをつくること。霞ヶ城公園南側の道（城山の際を通りお天守前公園に抜ける道）を、散策の機会を増やすための道とすること
- 石塀部分を工夫して、開放感を味わえるようにすること
- 史跡の保全に影響のない範囲で、既存の池を利活用するなどし、水辺空間を整備できないか検討すること

お天守前公園を活用する

お天守前公園は、お天守の正面という好立地で、イベント時には人が集まれるような広場機能が整備されていますが、平常時には人が集わない空間となっています。

人が行き交い、コミュニケーションを生み出すために、パラソル・カフェテーブル・椅子や、野点傘・毛氈・床几台などを設置します。将来的には、街中側のお堀の復元候補地としての調査着手を期待します。

1-2　お天守の美しさを際立たせる引き算の景観づくりで価値を高めていく

現存する最古の木造天守と言われるお天守。紛れもない日本の宝、後世に残すべき遺産の一つですが、興味の度合いは住民間でも温度差があります。お天守が在ることが当たり前の暮らしであることもその理由の一つかもしれません。地元から興味をもってもらえていないもの、大事にされていないものは観光客にも肌感覚、匂いとして伝わるものです。

まずは、私たち住民の、お天守への見方を少しずつ変えていきたいと考えます。お天守の美しさ、本物だから漂う迫力、歴史文化の重み、大切にしていきたい（されている）という想いが伝わる演出と、住民向けの情報発信などを通して、感度を高めていきます。

誰しも旅を通じて、心から感動する瞬間に巡り会うことがあります。私たちはお天守で、多くの人々にその感動を味わってもらいたい。そのポテンシャルは十分にあると考えます。そのために、お天守の美しさとは何か、どうするとその美しさを際立たせられるのかについて考えていきます。

新たに何かをつくる、建てるのではなく、取り除くこと、引き算の景観づくりによって、お天守の美しさや魅力が際立たせる景観をつくっていきます。

● お天守周辺の樹木を剪定する

東西南北どの方向からもお天守が見えるよう配慮していきます。

● チケット売り場（管理事務所）を見直す

城山内にあり景観を損ねているため、建物を除却、もしくは 2 階部分（茶室、会議室スペース）を取り除き低層の建物にする、もしくは外観をリノベーションするなど、お天守が美しくみえる景観演出を提案します。お天守に一番近い建物となるため特別な配慮が必要です。

● 説明板や案内板などの設置を見直す

丸岡城本丸内に様々な石碑類が設置されていますが、本当にその場所にあることがよいのか、移設した方がよいものであればどこがいいか、一つ一つ検討し見直して、空間を演出していきます。また、丸岡城本丸内の案内板について、全体計画をつくる

ことを提案します。

街中の案内板などについても同様に、設置場所は的確か、より景観に配慮できる工夫はないかについて、見直します。

電線の整理や地中化でよい景観をつくる

見上げると電線が張り巡らされている空は、日本らしい風景と言うこともできますが、丸岡城周辺にはふさわしくないと考えます。《丸岡城内堀公園》の整備とあわせ、城郭の地下構造を壊さないよう配慮しながら、電線を一部整理・地中化し、抜けがよく気持ちのよい景観を目指します。

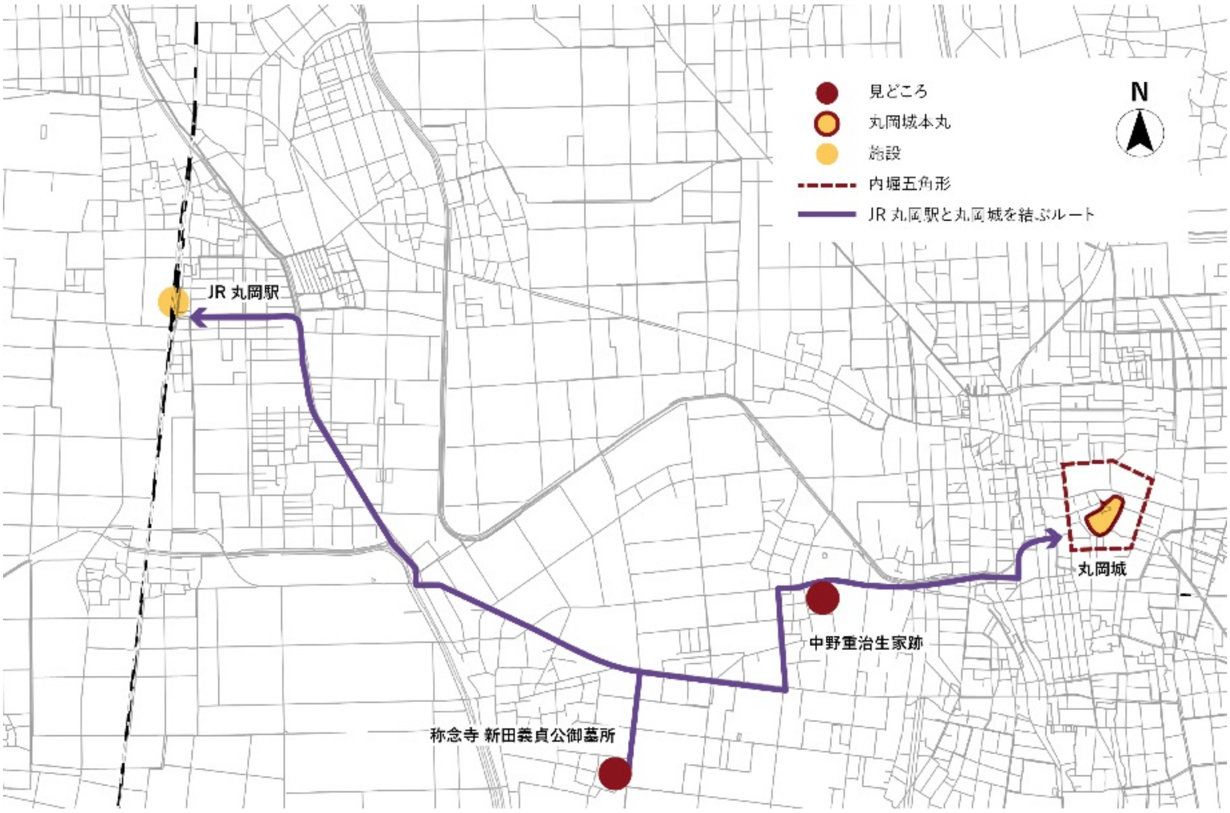
1-3　丸岡城本丸までの交通アクセスを工夫する

丸岡城本丸までストレス無く訪れてもらえるよう、街中までの交通アクセスを良くする工夫と、街中から丸岡城本丸への入口を分かりやすくする工夫が必要です。

最寄り駅からの交通アクセスを工夫する

最寄り駅である JR 丸岡駅から丸岡城本丸までは約 4.5km の距離があります。バスは日中に 3 本、徒歩では 50 分程度かかることから、タクシーを除く公共交通機関で訪れる場合は、JR 福井駅からバス（約 40 分/約 30 分に 1 本）、または JR 芦原温泉駅からバス（約 20 分：約 2 時間に 1 本）を推奨しており、車以外の交通アクセスが良いとは言えません。交通の便の悪いところにあってもわざわざ訪れたい店や観光地もありますが、お天守とその周辺がそれに当てはまっているかを考えると、観光まちづくりに取り組む先にあるのではないでしょうか。

例えば、期間を限定しシャトルバスを出す、タクシー会社と連携し乗り合いタクシーのメニューをつくる、JR 丸岡駅から丸岡城本丸までのルート沿いにある見どころを巡るツアーをつくるなどの工夫によって、ストレス無く訪れてもらえるような取り組みを、交通事業者や行政と共に考えて行きます。



JR 丸岡駅と丸岡城本丸を結ぶルート沿いの見どころ

丸岡城本丸への入口を分かりやすくする

丸岡 IC から、国道 8 号線から、バスターミナルからなど、車、徒歩いずれも丸岡城本丸への入口が分かりづらい状況が続いています。カーナビやスマートフォンアプリの活用は普及していますが、誘導サイン類の設置場所の見直しや新設などの整備を提案します。誘導サイン類は景観に配慮し、大きく無駄な構築物とならないようにします。

また、多くの人々に丸岡城を知ってもらう機会をつくるための工夫として、北陸自動車道や北陸新幹線沿線からお天守が見えるスポットに、サインの設置や車内アナウンスを流してもらうなどの働きかけをしていきたいと考えます。

基本方針2　観光まちづくりに力をいれる

観光を通してまちに活力を生みだし、より豊かなまちにしていくこと。この視点を大切にし、お天守しかないまちから、お天守もあるまちへとシフトしていきます。

『観光立国の正体』の中で、著者の山田桂一郎氏は、何度でも訪れたくなる「強い観光地」について次のように述べています。

> 何度でも訪れたくなる「強い観光地」の基礎となるのは、そこで暮らす人たちの豊かなライフスタイルです。そこにリアリティをもたらすためには地元ならではの生活文化や伝統風習、自然環境や景観の良さ、地場産業が提供する本格的な価値に裏打ちされたきめ細やかな商品や製品、サービスの提供が必要になります。
>
> そのためにはまず、その地域が持っている「本来の魅力、本当の宝」をしっかり洗い出す必要があり、地元が持つ哲学や思想、美学も継承しなくてはなりません。だからこそ、観光関連事業者だけでなく、農林漁業や商工業に関わる事業者の方々や NPO、市民団体から一般住民まで、幅広い層の人々が主体的に参加しているかどうかが重要になります。そして、地域経営という視点から地域全体を最適化するようなドラスティックな発想転換が不可欠です。
>
> （藻谷浩介/山田桂一郎著『観光立国の正体』新潮社 2016 年 47-48p より引用）

現在丸岡では、観光業を生業にしている事業者は多くありません。多様な観光ニーズ、観光スタイルのある現代は、多様な事業者が観光ビジネスに参入する契機でもあります。観光まちづくりで稼ぎ、継続して観光まちづくりに取り組める環境をつくっていきます。

お天守は、建物規模から一度に登城可能な人数に限りがあり、年間 15 万人が限界だろうといわれています。私たちはこのことを前向きに、入場制限や事前予約制などの措置が必要となった時に、楽しく待ち時間が過ごせたり、登城できなくとも、お天守の外観を楽しみ、界隈を楽しんでもらい、また次来よう、と思ってもらえるような観光まちづくりに力をいれていきます。

2-1　丸岡城のポテンシャルを活かした観光を創出していく

● 丸岡城本丸を活用し、観光・賑わい創出につなげていく

いい空間には心を揺さぶる力があり、お天守にはその力があると考えます。様々な人とコラボレーションし、この空間を活かして特別な体験を提供する、掛け算の活用にチャレンジします。また、丸岡城本丸内にある、お天守前広場やしだれ桜広場を積極的に活用していきます。

● 小さくて、華やかでないのが魅力

「これがお城（お天守）？」と拍子抜けされる方も少なくないほど、丸岡城本丸はお天守、城山ともに小さいサイズが特徴です。また、その意匠は素朴で渋く、玄人好みのお城と言えるでしょう。

特にお城ファンや、建築ファンではない観光客の方々に、お天守を見て体験してもらったことによって、お城や建築様式美の見方が変わるようなきっかけをつくり、その魅力を伝播させていきたいと考えます。

● 豊原寺に代表される丸岡城をとりまく歴史の重層さを引き出す

中世の宗教（都市）文化や信仰を紐とく時に重要な地の一つであった豊原寺との関連は、武将たちが活躍した戦国時代とは別の側面を浮かび上がらせてくれます。豊原寺跡を重要な資源として再認識し、丸岡の歴史文化の重層さを引き出していきます。

2-2　周遊したくなる仕掛けをつくり丸岡城周辺に人の流れをつくる

タブノキコース、寺町コースを中心に、散策してもらいたいルート沿いの魅力向上について取り組みます。街並を楽しむ散策が難しいことや店舗数がまだ十分にないことから、散策したいと思う理由づくりを仕掛けていきます。

2-3　食の楽しみを増やす

希少価値の高い丸岡産玄そば粉を使ったアレンジ料理、住民に人気の焼肉やホルモンを使ったアレンジ料理、資料を元にした殿様御膳の復活やそのアレンジ料理、豊原そうめんの復活といったメニュー開発や、食べ歩きが楽しめるコンセプト開発を行い、

多様な食体験を提供していきます。

2-4　マーケティング・PR に取り組む

観光客にストーリー性のある体験を提供できる観光まちづくりを進めていく上で、マーケティング[9]について取り組む必要があります。

今日、旅行に関連する取り組みには女性の視点を盛り込むことが定説であると言われていますが、丸岡城の場合、お城ファン、中高年男性、シニア層といった方々が訪れる機会の多い所となっています。ターゲットをどのように決め、何に取り組むのか、インバウンドもふまえ、マーケティング活動や PR[10]活動に着手していきたいと考えます。

[9] 「マーケティング」とは、「企業および他の組織がグローバルな視野に立ち、顧客との相互理解を得ながら、公正な競争を通じて行う市場創造のための総合的活動である」から、本ビジョンでは、「観光客を知り、そのニーズと需要を理解して、観光客の満足度を軸に、稼げる観光まちづくりを創造する活動」の意で使用します。

[10] 「PR（Public Relations）」とは、「組織とその組織を取り巻く人間（個人・集団・社会）との望ましい関係をつくり出すための考え方および行動のありかた」「双方向の合意形成作業」から、本ビジョンでは、「丸岡（城）と住民（対内的）、丸岡（城）と観光客（対外的）とのよい信頼関係づくり」の意で使用します。

基本方針3　心地よくワクワク感のあるまちを探求する

3-1　人のアクティビティ[11]を豊かにする

観光まちづくりを通して私たちが目指す丸岡の姿は、住民も、観光客も、どの世代もが心地よくワクワクするまち、「なんか面白そうだ」と可能性が感じられるまちです。

特に《丸岡城内堀公園》周辺により多くの人々に訪れて楽しんでもらうために、各まちづくり協議会や各種団体、こども達、そしてお城ファンの方々と協働し、アート・デザイン系、歴史文化系、お城系、自然系、文学系、ウェルネス系、こども系など様々な体験プログラムを用意していきます。

3-2　空き家を活かして丸岡城周辺の職・住・遊を混ぜていく

町家や古民家といった歴史を感じる建物でなくても、利活用方法やリノベーションで素敵な空間を創出できます。

内堀五角形周辺の空き家や空き店舗、空き倉庫をリノベーションし、ショップ、カフェ・レストラン、工房体験、ギャラリー、宿泊施設などに活用し、これらを巡る楽しさをつくっていきます。

また、オフィスなどにも積極的に活用し、平日昼間の交流人口を増やしていきたいと考えます。

そのために、空き家の実態調査、空き家活用の調整や運営管理の仕組みづくり、情報発信や、入居者の支援に取り組みます。

[11] 本ビジョンでは、「アクティビティ」を「活動・活気・活発・体をつかう活動や遊び」の総意として使用します。

第 5 章

施 策

第 5 章では
前章で掲げたまちづくりの基本方針に基づき
今後 5 年間[12]で着手していきたい
重点計画についてまとめていきます。

施策 1	食の開発に取り組む	34
施策 2	公民学が中立的にまちづくりに取り組める役割を担う機能をつくる	38
施策 3	お城ファンの寄り合いの場「城小屋」をつくる	40
施策 4	「まちに泊まる素泊まりホテル」と「滞在拠点」をつくる	42
施策 5	アクティビティづくりと人づくりをする	44
施策 6	散策・周遊性向上の仕掛けをつくる	49
施策 7	空き家や空き地の活用で観光まちづくりビジネスを創出する	52
施策 8	マーケティング・PR に取り組む	55
施策 9	内堀五角形周辺の環境整備を促進する	59
施策のロードマップイメージ		61

[12] 北陸新幹線敦賀開業は 5 年後の 2023 年春を予定しています。

施策1　食の開発に取り組む

● ねらい

観光の楽しみに食はかかせません。食でまちに賑わいを創出し、まち全体で集客力を向上させ、観光で稼ぐ意識を醸成していきます。

● 事業概要

丸岡の歴史や文化、風土からテーマやコンセプトをつくり、次の 3 つの視点から丸岡らしさが提供できる食の開発を行います。

① 飲食店の種類を問わずに取り組める食べ歩きのコンセプトづくりと商品づくり

「包む」「一口サイズ」「串物」「カップに入れる」など、共有のコンセプトを元に各飲食店が得意とする食材・分野で商品開発を行います。

備考

- コンセプトの公募を行うなど広くアイデアを募ることなども検討する
- 一般社団法人坂井市観光連盟と坂井市丸岡観光協会が取り組んでいる食べ歩きクーポン「丸岡城下町　食べ見て歩き得札」のメニューに加えることを検討する
- 完成後は食べ歩きフェアの開催などを展開していく

② お持ち帰り、お土産、お使いなどに利用できる特産品づくり

観光客の土産、住民のお使いなどに選ばれる加工・特産品をつくります。モニターによる試食を重ね消費者と共に開発したり、販路をしっかり開拓するなど、自己満足、急ごしらえではない商品をつくります。

③ 丸岡の食材や食文化をアレンジした新たなメニュー開発

丸岡産玄そば粉や農産物、焼肉・ホルモン、郷土料理ごんぼ汁、殿様御膳、豊原そうめんといった丸岡の食材や食文化をアレンジした新しいメニューを開発し、滞在拠点内の飲食店（42p 参照）で提供します。

丸岡の新たな名物料理となるよう、開発は料理人など専門家と共に行い、ここでしか食べられない料理を目指します。

プロセス

事業	主体[13] イメージ	PHASE 1　5 年間 **着手時のプロセス**	PHASE 2　5 年後 **検証･達成イメージ**	PHASE 3　5-10 年間 **広がり**
①飲食店の種類を問わずに取り組める食べ歩きのコンセプトづくりと商品づくり	◎市民の会 丸岡町商店連盟 丸岡観光協会 一筆啓上茶屋 各飲食店 坂井市観光連盟	• 地域内の飲食店に働きかける • 丸岡城の歴史や文化を丁寧に棚卸しし、そこからヒントを得て共通コンセプトをつくる • コンセプトに沿って飲食店毎に商品を開発する • 丸岡古城まつりなどのイベントで試験的に販売し開発を続ける • コンセプト名やロゴマークなどをつくり、販促・販売を開始する	**- 検証 -** 定量的 • 参加店舗数と販売数 例）5 年間で 30 店舗の参加 10 万個の販売数 定性的 • 消費者の満足度、リピーター度 • 賑わいの評価 • 参加飲食店の満足度 **- 達成イメージ -** • 食べ歩きを楽しみに訪れる観光客や住民で城周辺が賑わっている。参加飲食店が増え、盛り上がりをみせている • 参加飲食店が稼げている	• 飲食店などショップが増える • 食文化が豊かなまちづくりの展開 • 食で健康になるまちづくりの展開

13 「主体」とは、取り組みを立ち上げ、準備し、事業化するまたは実践する役割の意で使用しています。主体が複数ある場合、特に主となるであろう団体、コーディネート役となるであろう団体には◎をつけています。記載されている団体の正式名称は次のとおりです。
坂井市観光連盟=一般社団法人坂井市観光連盟 ／ 丸岡観光協会=坂井市丸岡観光協会 ／
市民の会=一般社団法人丸岡城天守を国宝にする市民の会 ／
ボランティアガイド=丸岡観光ボランティアガイド協会 ／ まち協=まちづくり協議会 ／
丸岡文化財団=公益財団法人丸岡文化財団 ／ 商工会丸岡支部=坂井市商工会丸岡支部

事業	主体[13] イメージ	PHASE 1　5 年間 **着手時のプロセス**	PHASE 2　5 年後 **検証･達成イメージ**	PHASE 3　5-10 年間 **広がり**
②お持ち帰り、お土産、お使いなどに利用できる特産品づくり	◎市民の会 一筆啓上茶屋 各飲食店	• 特産品開発チームをつくる • マーケティング調査をする • 丸岡周辺の食材、丸岡城の歴史や文化を丁寧に棚卸しし、そこからヒントを得て特産品のコンセプトをつくる • 特産品の開発、試食をくり返し完成させる • 売価、商品名、ロゴマーク、パッケージを決める • 製造計画、売上計画、販売計画、営業計画をたて、販路を開発する • 商品を販売する	**- 検証 -** 定量的 • 販売数 例）5 年後に 20,000 個/年間 定性的 • 消費者の満足度、リピーター度 • 製造者の満足度 **- 達成イメージ -** • 県内はもとより国内にファンがつくような商品になっており、丸岡のアピールにもなっている • 製造者が誇りをもって商品をつくり、稼げている	

事業	主体[13] イメージ	PHASE 1　5 年間 **着手時のプロセス**	PHASE 2　5 年後 **検証･達成イメージ**	PHASE 3　5-10 年間 **広がり**
③丸岡の食材や食文化をアレンジした新たなメニュー開発	市民の会	• 料理人など専門家とチームをつくる • マーケティング調査をする • 丸岡周辺の食材、丸岡城の歴史や文化を丁寧に棚卸しし、そこからヒントを得てメニューコンセプトをつくる • ターゲットを決め、ストーリーをつくりながらメニューを開発する • 素泊まり宿のレセプションとなる滞在拠点内の飲食店で提供する	**- 検証 -** 定量的 • 集客数 例）5 年後に 8,000 人/年 定性的 • 賑わいの評価 **- 達成イメージ -** • 遠方よりわざわざ食べに来るような、住民が自慢できる丸岡の新しい名物メニューになっている • 飲食店が稼げている	

施策2　公民学が中立的にまちづくりに取り組める役割を担う機能をつくる

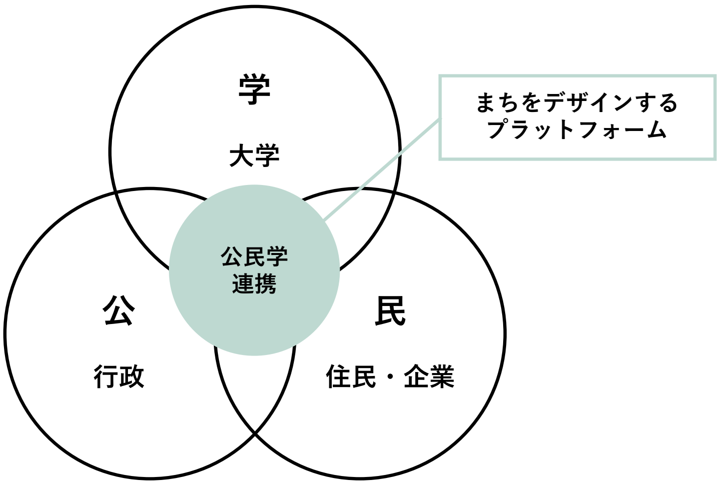
● ねらい

公共空間のハード整備を伴う構想や計画は、住民、お城ファン、まちづくり組織、地場産業企業、民間団体や企業、大学、城郭研究者、専門家[14]、触媒者[15]、そして行政などが同じテーブルにつき、それぞれの得意分野を活かし、対等な立場で話し合いながら進めていくことが大切です。利害関係者が集まり、まちをデザインしていける場をつくります。

● 事業概要

① 公民学連携組織をつくる

公共空間の演出や、空き家空き地の利活用によるまちづくりにおいて、多様な背景を持つ人々が集まって話合い、事業を推進していくことのできる機能を担う場や枠組み、もしくは組織をつくります。



公民学連携イメージ

[14] 「専門家」は、設計士・ランドスケープデザイナー・都市計画デザイナー・法律家・住職など

[15] 「触媒者」は、ファシリテーター（中立的な立場で支援する会議などの進行役）・コーディネーター（調整して一つにまとめあげる役）・アーティストなど

プロセス

事業	主体 イメージ	PHASE 1　5年間 **着手時のプロセス**	PHASE 2　5年後 **検証・達成イメージ**	PHASE 3　5-10年間 **広がり**
①公民学連携組織をつくる	市民の会 坂井市	• 空き家の調査や、公共空間の整備計画などのタイミングにあわせ、2018年に発足するUDCS（アーバンデザインセンター坂井）と連携し、公民学連携組織をつくる	**- 検証 -** 定量的 • 担うプロジェクト毎で評価 定性的 • 達成感、愛着度 • 景観の評価 • 美に対する成熟度 • 担うプロジェクト毎で評価 **- 達成イメージ -** • まちをデザインするプラットフォームがつくられ、公民学連携が機能したまちづくりが進められている • まちのデザインに住民が主体的に関わるようになっている • まちの課題を解決するための様々な試みに取り組んでいる	• 継続的に実施 • まちをデザインする重要性が地域に浸透する • 社会実験により取り組みやすい土壌づくり • まちづくりエリアの範囲を拡大する

施策3　お城ファンの寄り合いの場「城小屋」をつくる

● ねらい

お城ファンにとって特別な場所、必ず訪れたいと思うようなお城ファンのための寄り合いの場をつくり、お天守を訪れるお城ファンの満足度を高めて行きます。

● 事業概要

①「城小屋」をつくる

お城ファンの寄り合いの場「城小屋（仮称）」をつくります。お城ファンの交流の場、国内外のお城に関連する資料が閲覧できるミニ資料館、お城専門書店、城のまちまちづくり協議会で取り組んでいる鎧の製作工房、それらの鎧や戦国時代衣装のレンタル屋、お城にまつわる小物や古道具の販売など、小さなお城複合施設をつくっていきます。また、市民の会の拠点としても活用します。

城小屋はお城ファンへの満足度を高めるターゲットを絞り込んだ取り組みとなります。ついでに立ち寄るのではなく、お天守に来たら必ず訪れたい場にしていきます。お天守前公園周辺の空き家を利活用し、街中ゾーンの賑わいと周遊性を高めます。お天守が見えるスポットにあるとなお良いと考えます。

備考

- お城に特化させることから、ホスト役がとても重要となる
- お城ファンが集うコミュニティサイトの運営団体などと連携して運営するなど工夫する

プロセス

事業	主体イメージ	PHASE 1　5年間 **着手時のプロセス**	PHASE 2　5年後 **検証･達成イメージ**	PHASE 3　5-10年間 **広がり**
①「城小屋」をつくる	市民の会	• マーケティング調査をする • 城小屋の企画、事業運営計画をつくる • 連携したい団体などとチームを組む • 空き家物件を探し賃貸契約、リノベーションを行う • 準備、オープン	**- 検証 -** 定量的 • 来場者数 例)5年後に登城数の4割/年 定性的 • 来場者の満足度 • リピーター度 • コミュニティの濃度 **- 達成イメージ -** • お城ファンに人気のスポットになってきている • お城ファン同士のコミュニティスペースとして機能している	• 継続的に実施 • お城ファンの聖地を目指す • お城ファン同士のコミュニティから新たな展開が生まれる、発信される

施策4　「まちに泊まる素泊まりホテル」と「滞在拠点」をつくる

● ねらい

現在、丸岡には宿泊施設がありません。中長期滞在ができるまちにしていくために、宿泊機能を整えていきます。あわせて、私たちの豊かな暮らしを発信できる場、宿泊者や観光客との交流の場としての機能を持つ滞在拠点をつくります。

● 事業概要

①「まちに泊まる素泊まりホテル」をつくる

丸岡城周辺にある空き家を数軒借り、コンパクトな改修を施し、まちを楽しみまちに泊まるをコンセプトとする素泊まりホテルをつくります。宿泊料金には、朝食、霞の郷温泉チケット、レンタサイクル、滞在期間中の丸岡城本丸の登城料を含むなど工夫します。

備考

- 運営スキームについて丁寧な検討が必要
- 素泊まりホテルの準備を通して空き家の運営管理の仕組みをつくる

②「滞在拠点」をつくる

丸岡城周辺にある空き家（空き店舗）を借り、私たちの暮らしや丸岡を発信する滞在拠点をつくります。滞在拠点は、素泊まりホテルのレセプション、朝食も提供する飲食店、ショップ、ギャラリーなどを兼ねた、小さな文化複合施設です。

備考

- 丸岡を発信していく小さな文化複合施設としていくことから、住民観光客を問わず、文化、食、旅に対する感度の高い人に受信してもらえるような施設にする
- 飲食店では丸岡の食材や食文化をアレンジした新たなメニュー開発（34p 参照）を提供する

プロセス

事業	主体イメージ	PHASE 1　5 年間 **着手時のプロセス**	PHASE 2　5 年後 **検証･達成イメージ**	PHASE 3　5-10 年間 **広がり**
①「まちに泊まる素泊まりホテル」をつくる	市民の会	• マーケティング調査を行う • 立ち上げチームをつくる • 素泊まりホテル、滞在拠点の企画、事業運営計画をつくる • 空き家物件を探し賃貸契約、リノベーションを行う • 準備、オープン	**- 検証 -** 定量的 • 宿泊者数 例）5 年間で 2,500 人 定性的 • 宿泊者・来場者の満足度、リピータ一度 • 賑わいの評価 **- 達成イメージ -** • 泊まってみたい素泊まりホテル、行ってみたい滞在拠点として認知度が高まっている • 住民も観光客も訪れる滞在拠点になっている • 暮らしと商いを共存したいと考えているスタッフが働き続けることのできる環境が整っている	• 継続的に実施 • 中長期滞在者が増える • 宿泊施設の誘致につなげる
②「滞在拠点」をつくる				

施策5　アクティビティづくりと人づくりをする

● ねらい

現在ボランティアガイドが実施している、まちあるき「タブノキコース」「寺町コース」につづき、丸岡城周辺の楽しみを増やす機会をつくります。アクティビティづくりを通して、住民が観光まちづくりや丸岡城の歴史文化へ興味を持ち、主体的に楽しく参加できるよう人づくりに取り組み、コミュニティの醸成をはかります。

● 事業概要

① 体験型プログラムをつくる

まずは質より量、観光客向けから住民向けまでターゲットも様々に設定し、体験型プログラムをつくり、試行錯誤をくり返し、磨きをかけていきます。目指すのは、参加者の満足度が高く、かつ、各々に見合った経済活動をまわしていける質の高いプログラムです。

市民の会がコーディネーターとなり、住民や地域をまきこみ、多くの方々がプログラムづくりに参加できるよう進めていきます。

例えば次のような体験型プログラムも考えられます。

A　お寺巡りツアー

丸岡城周辺を中心に点在しているお寺を巡るコース。

B　豊原寺跡ツアー

豊原寺跡、白山神社跡、山城跡展望台[16]などを巡る、中世の宗教・政治・文化の歴史に思いを馳せるコース。

C　古地図や往来物散策

古地図や往来物[17]を片手に城郭を散策するブラタモリ的散策ツアー。

[16] 山城跡展望台からお天守を見下ろすことができます。
[17] 生活に必要な様々な知識を、手紙（=往来）体の文章の中に織り込んだ昔の教科書。丸岡往来（丸岡藩士遠嶽防人幸敏所有）が残されています。

D　外堀（田島川）で釣り大会、外堀で川下り

城郭の一部である外堀に親しんでもらうプログラム。

E　こども達への丸岡城歴史学習散策コース

丸岡町内の小学生、中学生、高校生を対象とした、丸岡城の歴史学習散策コースをつくります。丸岡町内のこども達の成長にあわせて地域資源について学ぶ機会をつくります。

備考
● 勉強会やワークショップなどを開催し、プログラムづくりに参加しやすい場をつくる

② 丸岡城とのコラボレーション

丸岡の地域資源と丸岡城を強く結びつける取り組み

A　一筆啓上、中野重治と丸岡城をつなげる「書く」ための場をつくる

丸岡の地域資源である、丸岡城、一筆啓上賞、中野重治をつなぐ取り組みを行います。一筆啓上賞は日本一短い手紙として、中野重治は昭和を代表する小説家・詩人として、共に丸岡が誇る地域資源です。これらが生まれた「文化的土壌=丸岡城」と、共通する「書く」という行為に着目したプロジェクトを立ち上げます。丸岡に来て、お天守を眺めながら、自分と向き合いものを書くための場をつくります。

ゆくゆくは、書くことをテーマとした特徴ある宿泊施設をつくるなど発展させていきます。

B　丸岡城下町音楽祭

丸岡の地域資源である、作曲家・今川節と丸岡城をつなぐ取り組みとして、丸岡城と音楽をテーマとした住民が主役の音楽祭の開催を計画し、お天守の周辺から音楽が流れてくる楽しいまちにしていきます。

ゆくゆくは、近隣地域の音楽でのまちづくりの取り組みとつなげ、広域連携の取り組みとして発展させていけると考えます。

③ 丸岡城本丸を活用した試みを実施する

丸岡城本丸を活用したイベントなどを開催し、来場者の感動体験を提供します。

A　丸岡城本丸×アート

丸岡城本丸を活用したアート作品の制作・展示を行います。お天守３階の望楼から観る作品、作品の一部となったお天守、お天守内やお天守前広場での特別展、内堀五角形が浮かび上がる作品など、アートとのコラボレートにより、お天守の魅力を引き出し発信する試みです。

B　丸岡城本丸×ピクニック　×キャンプ　×伝統芸能　×コンサート　×野点　×野外レストランなど

お天守前広場やしだれ桜広場などをステージに活用します。

C　丸岡城本丸×ゲーム

戦国時代ゲームなどの舞台として活用します。

備考
● お天守の価値を高めるためのプロジェクトであるため、維持保存に支障をきたすような活用はしない

④ 丸岡城の歴史文化が伝わり、体感してもらうツールを強化する

丸岡城の見どころ、丸岡の歴史について観光客に伝えるため、多言語対応の音声解説ガイドやスマートフォンアプリなどのツールをつくりそろえます。これらのガイドに沿って、お天守の外観、内観の見学、内堀や外堀を散策してもらうことにより、今は残されていない城郭への想像力を促し、観光客の知的欲求に応え、滞在・周遊の質を高めて行きます。

プロセス

事業	主体イメージ	PHASE 1　5年間 **着手時のプロセス**	PHASE 2　5年後 **検証・達成イメージ**	PHASE 3　5-10年間 **広がり**
①体験型プログラムをつくる	◎市民の会 ボランティアガイド 丸岡観光協会 各まち協 各種団体 住民・こども達 お城ファン	• 市民の会が調整役となり、プログラムづくりの参加を呼びかける • ワークショップも織り交ぜながらプログラム開発を行い、試験開催などを重ねプログラムをつくる • プログラムの紹介と申込ができるウェブサイトを整え、丸岡で体験できるアクティビティを広く発信していく	**- 検証 -** 定量的 • 参加者数 定性的 • 参加者満足度 • 実施者の達成感 • 賑わいの評価 **- 達成イメージ -** • 様々なアクティビティが実施され、丸岡城周辺で楽しむ人々が増えている • 人気のあるアクティビティが生まれている • 主体的に参加する住民が増えている	• 継続的に実施 • 朝昼夕夜、子どもから大人まで楽しめるアクティビティがある

事業	主体イメージ	PHASE 1　5年間 **着手時のプロセス**	PHASE 2　5年後 **検証･達成イメージ**	PHASE 3　5-10年間 **広がり**
③丸岡城本丸を活用した試みを実施する	市民の会 丸岡観光協会 丸岡文化財団 商工会丸岡支部	● プロジェクト毎に企画実施	**- 検証 -** 定量的 ● 参加者数 定性的 ● 参加者満足度 ● 実施者の達成感 ● 賑わいの評価 **- 達成イメージ -** ● 住民が楽しみ、丸岡を訪れる人が増えている ● ワクワク感のあるまちがつくられつつある	● 継続的に実施
④丸岡城の歴史文化が伝わり、体感してもらうツールを強化する	◎丸岡文化財団 坂井市 ボランティアガイド	● 伝えたいことの整理 ● ストーリーをつくる ● 伝えたいことが伝わるよう、どのツールを活用するか検討する ● ツールをつくり強化する	**- 検証 -** 定量的 ● 利用者数 定性的 ● 利用者満足度、理解度 **- 達成イメージ -** ● 丸岡城を堪能する観光客が増える ● 外国人観光客が増えつつある	● ARやVRなどによる次の体感ツールも導入され、かつての丸岡と今の丸岡の両方がより楽しめるようになる

施策6　散策・周遊性向上の仕掛けをつくる

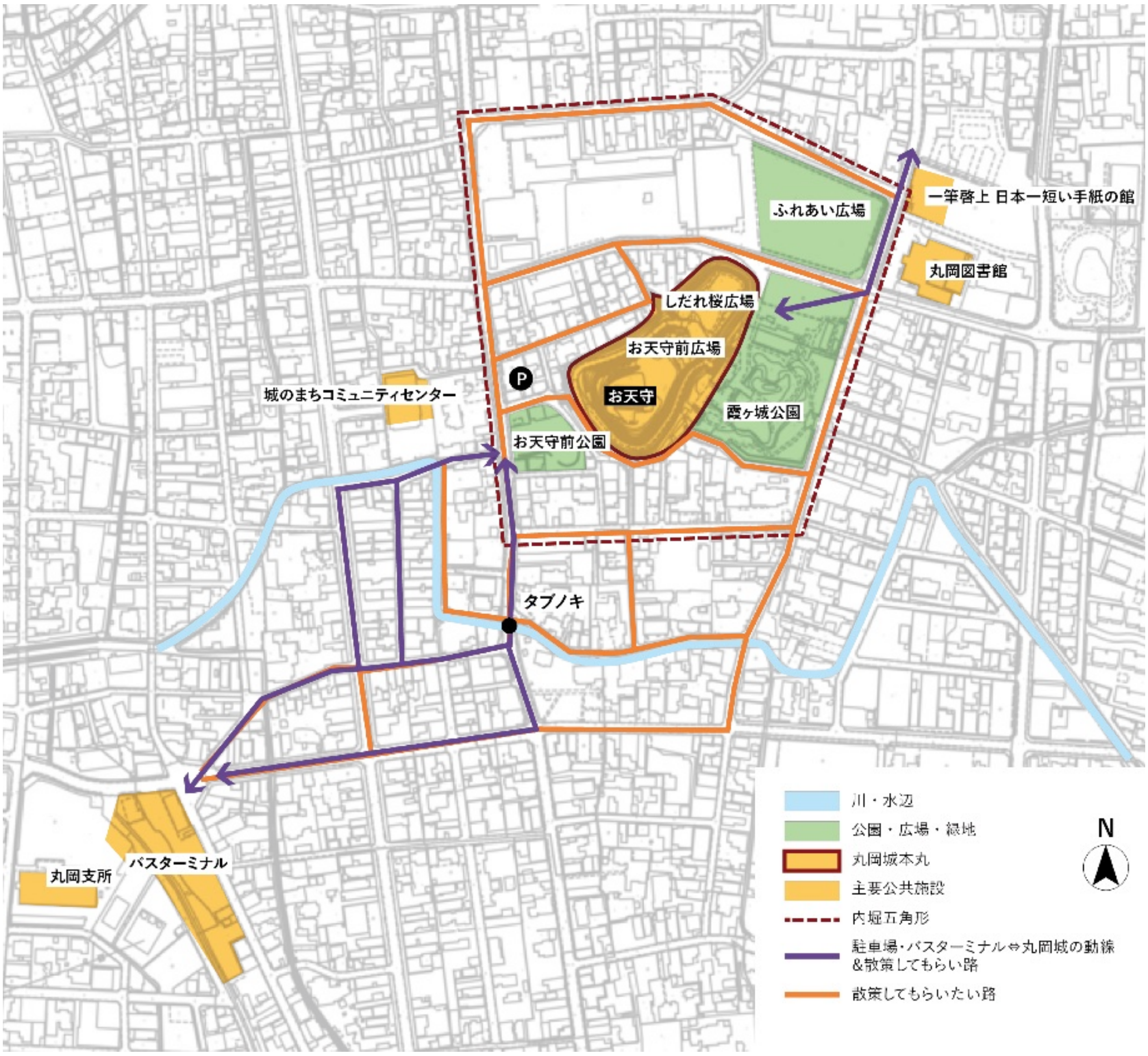
● ねらい

散策そのものを楽しめる仕掛けをつくり、観光客の満足度を高めていきます。

これらの仕掛けは住民も楽しめるものであり、観光客と住民が交流できる機会をつくり、人が出歩くことによる賑わいづくりを育てていきます。

● 事業概要

① 散策してもらいたいルートを演出する仕掛けづくり



散策してもらいたいルートイメージ

次のようなプロジェクトを実施します。

A　一筆啓上賞や中野重治「梨の花」と越前織とのコラボレーションによる屋外展示

一筆啓上賞の受賞作品や、中野重治「梨の花」のフレーズを越前織の台紙に貼った掛け軸などを製作して周遊ルートに展示し、散策の楽しさを演出します。

B　丸岡ベンチプロジェクト

周遊ルート沿い、ショップや飲食店付近、お天守のビューポイントにベンチを設置し、人との交流や休憩する機会を促し、散策の楽しさを向上します。

C　植物で演出する

各家の軒先を思い思いの植物で飾ったり、オープンガーデン（一般の方に公開する個人などの庭園）に取り組むなど、植物や花でルートを演出します。

D　バスターミナルから丸岡城本丸までのルートの空間演出

バスターミナルから丸岡城本丸までは徒歩８分かかります。登城への気分を高めたり、登城後の余韻に浸れるようなストーリー性ある演出をします。

- 城郭が想像できる案内板を制作し設置する（現在地が城郭のどこのポイントになるのか、古地図を使って表示する。あわせて現在地の城郭にまつわる小話を掲載する）
- ルート沿いの住民に協力してもらい、のれんや小旗をかかげ、それを辿ってお天守に向かう
- ルート沿いの空き地を活用して丸岡城にまつわる屋外展示を行う

プロセス

事業	主体 イメージ	PHASE 1 5年間 **着手時のプロセス**	PHASE 2 5年後 **検証･達成イメージ**	PHASE 3 5-10年間 **広がり**
①散策してもらいたいルートを演出する仕掛けづくり	**A** 丸岡文化財団 市民の会 **B** 公民学連系組織 坂井市 市民の会 **C** 市民の会 各まち協 住民 **D** 坂井市 公民学連携組織 丸岡観光協会 市民の会	• マーケティング調査 • どの取り組みやルートから着手するか、常設か期間限定かなどの全体計画をたてる • 着手する取り組みについての企画・準備 • 実施	**- 検証 -** 定量的 • 歩行者数 定性的 • おもてなしの評価 • 歩行者の満足度 • 賑わいの評価 **- 達成イメージ -** • 丸岡城周辺の散策を楽しむ人々が増えている • 散策を通して人の交流やコミュニケーションが生まれている	• 継続的に実施 • ルート毎、地区毎に特色のある取り組みがなされ、散策が楽しくなる • ルート沿いにショップなどが増える • 住民参加が増える

施策7　空き家や空き地の活用で観光まちづくりビジネスを創出する

● ねらい

空き家を活用し、街中の空洞化を少なくし、稼げる観光まちづくりのビジネスの機会を育て、丸岡城周辺の活用価値を高めていきます。

● 事業概要

① 空き家や空き店舗の利活用コーディネートに取り組む

地元不動産事業者と連携し、空き家が利活用されやすい仕組みをつくります。地域コミュニティの中で信頼関係を育てながら、空き家情報を収集し、貸したい人を増やします。ショップ、カフェ、レストラン、オフィスなどテナントの入居者を募り、家主と入居者のマッチングを行います。

備考
● 空き家や空き店舗を管理する取り組みについても検討する

② 公共空間や空き地の利活用に取り組む

お天守前公園にオープンカフェを設置したり、お天守前広場、しだれ桜広場、ふれあい広場などで、プレイスメイキング[18]やキャンプなどの試みを行い、公共空間や空き地の利活用に取り組みます。

[18] 「プレイスメイキング」は居場所づくり=場に賑わいをつくり居心地をよくする手順、哲学のこと。例えば公園や広場、道などに折りたたみ椅子を用意し、利用者が好きな場所で椅子を広げて座ることで起こる賑わいなど、公共空間に居場所をつくる試みがあげられます。
参考 URL：「ソトノバ」ウェブサイト
http://sotonoba.place/whatisplacemaking1
http://sotonoba.place/whatisplacemaking2

プロセス

事業	主体 イメージ	PHASE 1　5年間 **着手時のプロセス**	PHASE 2　5年後 **検証･達成イメージ**	PHASE 3　5-10年間 **広がり**
①空き家や空き店舗の利活用コーディネートに取り組む	◎公民学連携組織 不動産事業者 市民の会	• 空き家、空き家予備軍、空き地などの実態調査を行う • 各空き家の魅力や利活用（入居）案を家主に伝え、貸したい家主を募る • 利活用案を基に情報を発信し入居者を募りマッチングする	**- 検証 -** 定量的 • 入居者数 例）5年間で 10入居者 定性的 • 家主、入居者、近隣住民の満足度 • 賑わいの評価 **- 達成イメージ -** • 空き家の利活用について住民の理解と信頼が得られ、情報が集まるようになり、貸したい人が増えてきている • 入居者の商いが軌道にのり、結果まちに賑わいが生まれている • 昼間人口に増加傾向がみられる	• 継続的に実施 • 丸岡城周辺の価値が上がり、ショップなどのテナント利用、オフィス利用が増える • 起業できる環境が生まれている • 昼間人口が増える • IUターン者が増える • 地区やエリア毎の特色を打ち出した利活用の展開

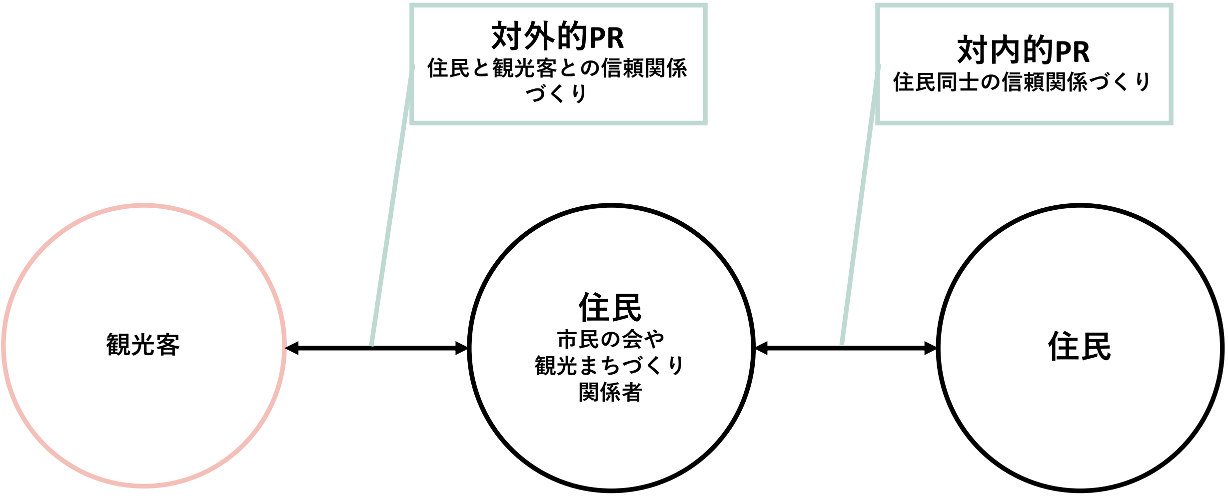
事業	主体イメージ	PHASE 1　5年間 **着手時のプロセス**	PHASE 2　5年後 **検証･達成イメージ**	PHASE 3　5-10年間 **広がり**
②公共空間や空き地の利活用に取り組む	公民学連携組織 市民の会	• 公園使用許可などの問題をクリアにする • オープンカフェを設置し、管理運営する	**- 検証 -** 定量的 • 利用者数 定性的 • 賑わいの評価 **- 達成イメージ -** • 人が集いたくなるような空気が生まれている • 人の交流やコミュニケーションが生まれている	• 継続的に実施 • 空き地のポケットパーク利活用が増え、より一層の賑わいが創出される

施策8　マーケティング・PR に取り組む

● ねらい

お城ファンや観光客のニーズをくみ取り、他と差別化した特徴ある観光まちづくりを推進していくため、丸岡城のマーケティングに着手します。調査・戦略・PR 実践を通して、“丸岡らしさ”をつくる仮説・検証のサイクルを確立できるようにしていきます。

PR について、本ビジョンの内容を住民と共有し、“丸岡らしさ”を考えて行く「対内的な PR」、観光客とのコミュニケーション活動に取り組む「対外的な PR」を実践します。



PR（パブリックリレーションズ）イメージ

● 事業概要

① マーケティング調査

お城ファンや観光客の行動を知り、丸岡城本丸とその周辺に何を求めているのか、何を求めたいのかについての調査に着手します。

その結果を基に、PR 活動計画をたて実践していきます。あわせて本ビジョンの施策を見直し、軌道修正や改善をはかっていきます。

備考

- 調査項目例：
  - 丸岡城を知ったきっかけ
  - 丸岡城に行ってみたいと思ったきっかけ
  - 体験した満足度、他者への伝達
  - リピート度、残念度
  - 旅行前後の感情の変化
  - 観光客入込数のカウント方法についての見直し
- 外国人観光客への PR 活動にも取り組む
- マーケティング調査は調査会社や専門家の協力を検討する

② キャッチコピーづくり

お天守の魅力や新しい見方を凝縮したキャッチコピーをつくり、プロモーションに活用していきます。

想定キーワード

小さい　不思議議　桜　桜海（おうかい）　素朴　無骨　風格　迫力

おもむき　あじわい　いい感じ　高まる　なんとも　なかなか　さすがに

③ 丸岡城大使

お城ファンの方々に向けて国内外で募集をかけ、丸岡城大使を委嘱します。素泊まりホテル（42p 参照）の一室を提供するなど、何度も訪れてもらえるよう工夫し、丸岡城をアピールしてもらいます。また、丸岡城大使が登壇する講演会や勉強会、交流会などを開催し、住民がお城ファン視点の丸岡城について知る機会をもうけ、観光まちづくりに活かしていきます。

④ 一口城主

寄付金を募る一口城主制度をつくり、多くの人々に応援し参加する心を寄せてもらいます。ガバメントクラウドファンディング[19]を活用し、まずは達成目標額があまり高くないもので挑戦します。将来的にはお堀の復元といった大規模な復元計画への寄付金が募れるように努めます。

⑤ 住民への PR 活動

本ビジョンについて、住民の方々に説明し、話し合える場をつくり、広く浸透させていきます。この取り組みを通して本ビジョンが観光まちづくりの拠り所として機能するよう、内容も更新していきます。

プロセス

事業	主体イメージ	PHASE 1　5 年間 **着手時のプロセス**	▶	PHASE 2　5 年後 **検証･達成イメージ**	▶	PHASE 3　5-10 年間 **広がり**
①マーケティング調査	◎坂井市 公民学連携組織 市民の会	• 専門家とチームを組む • 計画を立てマーケティング調査をする • 数値目標を設定するための基準値を決める • マーケティング調査の結果を関係団体等で共有し、マーケティング活動の計画・実践につなげていく		**- 検証 -** 定量的 • 観光客入込数 ※数値目標の基準を決める必要がある • 丸岡城本丸登城者数 例） 15 万人/年 定性的 • 観光客の満足度		• 継続的に実施 • 外国人観光客の積極的受け入れが実現 • まちづくりエリアの範囲を拡大する

19 「ガバメントクラウドファンディング」とは、ふるさと納税制度を活用して行うクラウドファンディングです。寄付者が寄付の使い道から選ぶのが特徴です。

事業	主体イメージ	PHASE 1　5年間 **着手時のプロセス**	PHASE 2　5年後 **検証･達成イメージ**	PHASE 3　5-10年間 **広がり**
②キャッチコピーづくり	丸岡文化財団 市民の会 丸岡観光協会	• 専門家と協力しキャッチコピーをつくる • キャッチコピーを様々なツールに用いて広める	• 住民の関心度 **- 達成イメージ -** • リピーター増の手応えが感じられるようになっている • 丸岡を応援してくれる人が増えてきている • 住民の観光まちづくりへの理解や関心度が高まってきている	
③丸岡城大使	市民の会 丸岡文化財団	• マーケティング調査をする • 丸岡城大使に何を提供し、何を提供してもらうか企画設計する • 国内外向けに募集をかける • 丸岡城大使の活動をサポートする		
④一口城主	◎坂井市 丸岡文化財団 市民の会	• 何から取り組むか計画する • 坂井市で制度を構築し資金を募る		• お堀などの復元の一部実現化 • 《丸岡城内堀公園》の実現化
⑤住民へのPR活動	市民の会	• 折々で説明する場を設け、話合い浸透させていく		• 継続的に実施

施策9　内堀五角形周辺の環境整備を促進する

● ねらい

内堀五角形内を人が集まる憩いの場としていくために、《丸岡城内堀公園》実現に向けた環境整備の促進を提案します。

● 事業概要

《丸岡城内堀公園》実現を含めた環境整備についての意志決定は、坂井市が主体となります。私たちはまず、本ビジョンを市の施策に反映していくことについての意志決定がなされることを望みます。環境整備の構想や計画については、公民学連携組織が中心となりながら、私たち住民が我がごととして関わり、進めていくことを提案します。

① 環境整備計画の着手

第 4 章 まちづくりの理念と基本方針 基本方針 1（16p～26p 参照）で掲げた方向性の中から、優先度が高いと考えるものは次のとおりです。

- 一筆啓上茶屋の移設
- 霞ヶ城公園のエリア拡大とリノベーション、内堀五角形ラインの一部遊歩道化、電線の一部地中化
- 引き算の景観づくり
- 誘導サイン類の見直しや新設整備

② 史跡指定や将来的なお堀などの復元[20]に向けた調査の着手

[20] お堀の復元構想の際には、お堀の水を田島川から引くことや、貯水機能を災害時対応に活かすことなどもあわせて検討します。

プロセス

事業	主体イメージ	PHASE 1　5年間 **着手時のプロセス**	PHASE 2　5年後 **検証･達成イメージ**	PHASE 3　5-10年間 **広がり**
①環境整備計画の着手 ②史跡指定や将来的なお堀などの復元に向けた調査の着手	坂井市 公民学連携組織	※市民の会で、本ビジョンを坂井市に提案し、環境整備計画の着手、調査の着手について働きかけていく	**- 検証 -** 定性的 • 住民の達成感 • 丸岡城に対する愛着度 • 景観の評価 **- 達成イメージ -** • 環境整備計画、調査の着手が行われている • 公民学連携組織を通して様々な利害関係者が環境整備計画に携わり、実現したい未来に向けて一歩が踏み出せている	• お堀などの復元の一部実現化 • 内堀五角形ライン遊歩道の完成 • 《丸岡城内堀公園》の広がり • 史跡指定や丸岡城郭の価値の高まり

施策のロードマップイメージ

施策	事業	1年目 2018年度	2年目 2019年度	3年目 2020年度	4年目 2021年度	5年目 2022年度
		4月 7 10 1	4月 7 10 1	4月 7 10 1	4月 7 10 1	4月 7 10 1
		● 福井国体 バスターミナル完成●		●東京オリパラ		北陸新幹線敦賀開業●
❶食の開発	①食べ歩き		計画・開発・準備	販売	検証・改善	
	②特産品			計画・開発・準備	販売	検証・改善
	③新たなメニュー	計画・開発・準備		4-②で提供	検証・改善	
❷公民学連携機能	①公民学連携組織	UDCSとの協力・連携	7-①, 7-②, 9-① の着手にあわせて組織を機能			
❸城小屋	①城小屋	計画・準備		オープン	検証・改善	
❹素泊まりホテル・滞在拠点	①素泊まりホテル		計画・準備		オープン	検証・改善
	②滞在拠点	計画・準備		オープン	検証・改善	
❺アクティビティ・人づくり	①体験型プログラム	計画・勉強会・プログラムづくり・プレ開催		実践・検証・改善		
	②丸岡城を活用	計画・準備	実践・検証・改善			
	③ツールを強化		計画・準備	活用	検証・改善	

計画・準備　　立ち上げ後　　坂井市が主体イメージ（坂井市への提案）

施策	事業	1年目 2018年度 4月 7 10 1	2年目 2019年度 4月 7 10 1	3年目 2020年度 4月 7 10 1	4年目 2021年度 4月 7 10 1	5年目 2022年度 4月 7 10 1
		● 福井国体	バスターミナル完成●	●東京オリパラ		北陸新幹線敦賀開業●
❻散策・周遊性	①散策ルートを演出	計画・	プレ開催・検証	演出の継続的実施		
❼空き家・空き地の活用	①コーディネート	2, 3にあわせて下地づくり		空き家マネジメント・コーディネート		
	②公共空間・空き地の利活用	計画・準備		実践・検証・改善		
❽マーケティング・PR	①マーケティング調査	調査設計	マーケティング調査	調査の継続的実施、市民の会などと連携してマーケティング活動へ		
	②キャッチコピー	計画・キャッチコピーづくり		様々なツールへの活用		検証・改善
	③丸岡城大使	計画・準備 募集・委嘱	大使のサポート		検証・改善・募集	大使のサポート
	④一口城主	計画・準備		募集	検証・改善	検証・改善
	⑤住民へのPR	実践				
❾環境整備計画	①環境整備計画		環境整備計画			
	②復元に向けた調査				調査	

第6章

おわりに

—チャレンジしよう—

元朝吉祥図 画：故志田弥広（あわら市梱）

本ビジョンは観光まちづくりに携わる方々との議論の中で
また、取り組みの検証や改善の中で
常に見直していきます。

事の大小にかかわらず、できることは自分達でまずやってみる
そこから動き出した何かを広げ深める
上手くいかなかったら軌道修正して進めていくというように
多世代多様な人々が関わり合い
事を成していくプロセスを楽しめるまちでありたいと思います。

課題を“丸岡らしさ”に変え
より可能性が感じられるまちにしていくために
行動をおこしていきましょう。

今後の進め方

各施策は、アクションプランを別に定め、具体的に進めていきます。施策毎に検証を行うタイミングを決め、関係者と検証し改善を図っていきます。あわせてこれらの結果をふまえ本ビジョンの見直しに反映していきます。

本ビジョンの施策を推進していくために、市民の会の組織力、体力、信頼力の強化が必要です。事業を立ち上げ、継続して実施し、地域に貢献していけるようこれらの強化を図ります。

備考

- 第 3 章：実現したい未来（11p 参照）、第 4 章：まちづくりの理念と基本方針（15p 参照）では、有効な基準値を抽出できず、数値目標（50 年後、10 年後の年間観光客入込数）を定めませんでした。丸岡城本丸への年間登城者数が現実的な基準値として考えられますが、15 万人/年間 程度が上限だろうという見解（坂井市文化課・丸岡城国宝化推進室）により使用できる基準値とならないことなどが理由としてあげられます。今後、第 5 章：施策の施策 8：マーケティング調査（55p 参照）を経て数値目標を設定する必要があります。

本ビジョンは、一般社団法人丸岡城天守を国宝にする市民の会 丸岡城周辺まちづくりビジョンワーキンググループ（座長：江川誠一/福井県立大学 地域経済研究所 講師）が作成したものです。なお、作成にあたっては、まるおか城の会が 2016 年 7 月に坂井市に提出した提案書も土台とさせていただきました。

（ワーキンググループ開催日）

2017 年 8 月 25 日　第 1 回ワーキンググループ
2017 年 9 月 4 日　第 2 回ワーキンググループ
2017 年 9 月 20 日　第 3 回ワーキンググループ
2017 年 10 月 5 日　第 4 回ワーキンググループ
2017 年 10 月 18 日　第 5 回ワーキンググループ
2017 年 12 月 7 日　第 6 回ワーキンググループ
2018 年 1 月 11 日　第 7 回ワーキンググループ
2018 年 2 月 22 日　第 8 回ワーキンググループ
2018 年 3 月 8 日　第 9 回ワーキンググループ

ワーキンググループメンバー、また本ビジョン策定においてご協力をいただきましたすべての皆さまに深く感謝申し上げます。

資 料

1　丸岡城について

お天守 3 階東側から見える山間部に豊原寺跡が残されています。泰澄大師によって開かれた豊原寺は、かつて自然の要塞として繁栄しました。

天正 3 年（1575 年）、越前一向一揆は豊原寺を本拠地としたため、織田信長によって焼き払われました。信長は、豊原寺を平定後、柴田勝家の甥、柴田勝豊に豊原西方院へ築城することを命じました。翌年の天正 4 年（1576 年）、勝豊は、丸子の岡（椀子の丘とも）に城を移築、平山城の築城、城下町の建設に入りました[21]。この内、現在まで残されているのがお天守です。

お天守

[21] その際、豊原に残っていた寺院や住民も共に移住してきました。その後豊原寺は福井藩主や丸岡藩主の支援もあり、白山信仰の霊地として繁栄しましたが、昭和 38 年（1963 年）の豪雪を経て無居住地となりました。

その後勝豊が長浜城主となると、在番として安井家清を置き、柴田氏滅亡後は青山忠元が在城しました。慶長 5 年（1600 年)、結城秀康の越前入封後は、翌年から、重臣今村盛次が在番、久世騒動で退けられたあと、慶長 18 年（1613 年）本多成重に交代しました。慶長 20 年（1615 年)、江戸幕府は「一国一城令」を制定し、寛永元年（1624 年)、成重は初代丸岡藩主（大名）に取り立てられました。

本多氏は丸岡城下の整備、領内の検地、新江用水の開削などを行いましたが、4 代藩主重益の時に家臣間の抗争が起こり（丸岡騒動)、重益は家中取り締まりの非を受けて改易となりました。元禄 8 年（1695 年)、日向国延岡から越後国糸魚川 5 万石に転封となっていた、キリシタン大名有馬晴信の曾孫、有馬清純が丸岡藩主として入封しました。文化元年（1804 年)、9 代藩主誉純は、学者を招き、藩校平章館を創設し、文教政策（藩史編さん事業）を進め注目されました。有馬氏は 8 代にわたり、江戸幕府の老中という要職についた 12 代藩主道純にいたって明治維新を迎えます。

本多氏 4 代、有馬氏 8 代によって 5 万石が維持された丸岡城下町は、内堀と外堀をめぐらし、郭内には大身の武家屋敷、城北と郭外には下級武士の屋敷が並びました。町屋の中心は城南で、南北に谷町・富田町・石城戸町、このほか城西郭外を北に向かって魚町・新町・室町・小人町がありました。城下から北東に金津道、南西に福井道が走り、北陸街道と合流していました。

正保城絵図[22]越前国丸岡城之絵図（天地逆）

明治 6 年（1873 年）、廃城令によって、丸岡城郭の様々なものが払い下げになり、お天守も入札により民間所有となりました。解体を免れた経緯は詳らかではありませんが、その後明治 34 年（1901 年）に、町民有志から公会堂として寄付を受け、公有

[22]「正保城絵図」は、正保元年(1644 年)に幕府が諸藩に命じて作成させた城下町の地図です。城郭内の建造物、石垣の高さ、堀の幅や水深などの軍事情報などが精密に描かれているほか、城下の町割・山川の位置・形が詳細に載〔ママ〕されています。各藩は幕府の命を受けてから数年で絵図を提出し、幕府はこれを早くから紅葉山文庫に収蔵しました。（「国立公文書館デジタルアーカイブ」https://www.digital.archives.go.jp/より引用）

となりました。

丸岡城城主一覧

初代城主　柴田勝豊
2 代城主　安井家清
3 代城主　青山宗勝
4 代城主　青山忠元
5 代城主　今村盛次

本多氏（譜代 4 万 3000 石）
6 代城主　本多成重（丸岡藩初代藩主）
7 代城主　本多重能（丸岡藩 2 代藩主）
8 代城主　本多重昭（丸岡藩 3 代藩主）
9 代城主　本多重益（丸岡藩 4 代藩主）

有馬氏（外様から譜代 5 万石）
10 代城主　有馬清純（丸岡藩 5 代藩主）
11 代城主　有馬一準（丸岡藩 6 代藩主）
12 代城主　有馬孝純（丸岡藩 7 代藩主）
13 代城主　有馬允純（丸岡藩 8 代藩主）
14 代城主　有馬誉純（丸岡藩 9 代藩主）
15 代城主　有馬徳純（丸岡藩 10 代藩主）
16 代城主　有馬温純（丸岡藩 11 代藩主）
17 代城主　有馬道純（丸岡藩 12 代藩主）

一筆啓上

初代丸岡藩主となった本多成重の父は、徳川家康配下の猛将として知られ、永禄 8 年（1565 年）には家康の三奉行の 1 人にも任ぜられた本多重次です。この重次が残した短い手紙が、日本一短い手紙として有名な「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」。お仙とは成重の幼少期の名前です。

（参考：『福井県大百科事典』発行/福井新聞社 1991 年）

（参考：『丸岡城とその周辺観光ガイド』発行/丸岡観光ボランティアガイド協会 2014 年）

2 国宝丸岡城

丸岡城天守は、昭和 9 年（1934 年）、国宝保存法（旧法）に基づいて国宝に指定されました。昭和 17 年（1942 年）、2 年かけて行った解体修理工事が完了しましたが、昭和 23 年（1948 年）6 月 28 日に発生した福井地震により倒壊しました。幸いなことに、火災による焼失は免れたため、倒壊した部材の多くを再利用して修復工事に着手。昭和 30 年（1955 年）に完了しました。

「國寶 霞ヶ城」の石碑

その間に国宝保存法は、文化財保護法へと改正になり、丸岡城天守を含む旧法の国宝は重要文化財になりました。国宝指定当時に建てられた『國寶 霞ヶ城』の石碑が現在もお天守前公園西側の階段そばに残されています。

3 丸岡出身の偉人紹介

◎ 住友（すみとも） 政友（まさとも）

住友政友は、住友家を興した家祖です。天正 13 年（1585 年）、柴田勝家に仕えた武家の次男として生まれ、12 歳で京へ上りました。政友は、後に「住友家法」に受け継がれることとなる、「文殊院旨意書」で商家の心構えを残しています。このご縁があり、一筆啓上賞は、住友グループ広報委員会から支援をいただいています。

◎ 友影（ともかげ） 賢世（けんせい）

明治 3 年（1870 年）長畝村生まれ。昭和 23 年（1948 年）の福井地震によって倒壊した丸岡城天守を再建するために尽力した、当時の丸岡町長です。友影町長は地震後すぐに上京し、熱心に文部省と国の文化財保護委員会に復元再興を陳情しました。その結果、国と県の補助金の残額を地元が負担する条件で再建が承認され、地元が負担する資金調達のために、当時 79 歳の高齢だったにもかかわらず、全国を回り奔走しました。その友影町長の想いに応えたのが、荒田太吉氏です。

◎ 荒田（あらた） 太吉（たきち）

明治 10 年（1877 年）丸岡町石城戸生まれ。実業家。のちに北海道に渡り、海陸物産、汽船会社、造船・郵船会社を創業するなど事業家として成功されました。昭和 15 年（1941 年）から行われた丸岡城天守解体修理の寄進、昭和 23 年（1948 年）の福井地震での丸岡城天守倒壊後の再建に大きく貢献された方です。

◎ 中野（なかの） 重治（しげはる）

明治 35 年（1902 年）高椋村一本田生まれ。日本を代表する小説家、詩人。多くの文化人に今もなお影響を与えています。丸岡がモデルとなった小説「梨の花」は

ベストセラーとなりました。丸岡図書館に中野重治記念文庫が設置されています。

◎ **小葉田 淳**（こばた あつし）

明治 38 年（1905 年）丸岡町生まれ。歴史学者。京都帝国大学名誉教授、日本学士院賞受賞、文化功労者。貨幣史、鉱山史、貿易史、交通史など、それまでに十分な検討がなされていなかった分野で実証主義的な研究を積み上げられました。その業績は海外でも高く評価されています。丸岡図書館に小葉田淳記念文庫が設置されています。

◎ **今川 節**（いまがわ せつ）

明治 41 年（1908 年）丸岡町巽生まれ。作曲家。森田銀行（現福井銀行）で勤めながら、肺結核で 25 歳という短い生涯を終えるまでに、代表曲『ペチカ』（詞：北原白秋）をはじめ 260 曲以上もの曲をつくりました。

◎ **石墨 慶一郎**（いしずみ けいいちろう）

大正 10 年（1921 年）高椋村舟寄生まれ。日本一の米「コシヒカリ」の品種を開発し「コシヒカリの父」と呼ばれています。

2017年度 坂井市丸岡城周辺まちづくりビジョン策定事業

丸岡城周辺賑わいのまちづくりビジョン

2018年3月（初版）

一般社団法人丸岡城天守を国宝にする市民の会
（丸岡城周辺まちづくりビジョンワーキンググループ）

福井県坂井市丸岡町霞町 1-41-1

maruokacastle@gmail.com

2018年3月

〈 一般社団法人丸岡城天守を国宝にする市民の会 〉